

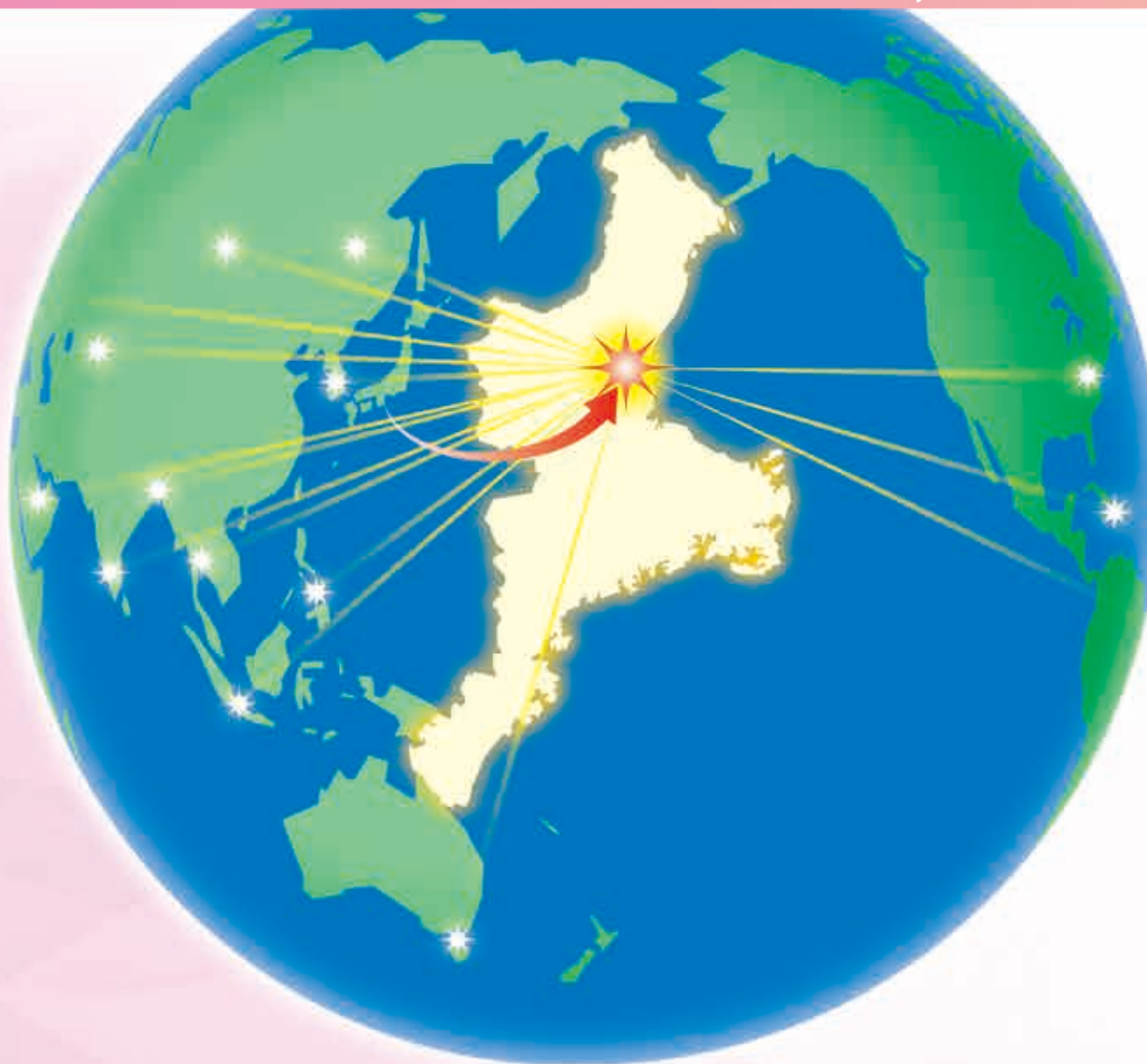
三重大学 国際交流年報 2015

第 2 号

(通巻第 16 号)

Vol.2

Annual Report 2015 - International Activities of Mie University



- I 三重大学における国際化
および国際交流
- II 各学部・研究科等の
主な国際交流活動
- III 国際交流センターの活動
- IV 学生総合支援センターによる
留学生支援・海外留学支援・
地域国際化支援業務
- V 資料

大学の基本的な目標

三重の力を世界へ

地域に根ざし、世界に誇れる独自性豊かな教育・研究成果を生み出す。

～ 人と自然の調和・共生の中で ～

基本理念(国際化)

三重大学は、国際交流・国際協力の拡大と活性化を図るとともに
国際的な課題の解決に貢献できる人材を養成し、大学の国際化を目指す。



目次

Contents

巻頭言（国際交流担当副学長・国際戦略本部長）

2015年度三重大学国際交流年報の発刊にあたり	01
-------------------------	----

I. 三重大学における国際化および国際交流

1. 国際化および国際交流の実施体制	03
2. 外国大学等との協定締結	04
(1) 概況	04
(2) 2015年度新規協定締結機関	04
3. 外国人教員短期招へいプログラムによる受入れ	05
4. 外国人研究者受入れ	05
国際交流協定締結機関地図	06
5. 外国人留学生数	08
(1) 学部別内訳	08
(2) 国別内訳	09
6. 三重大学生の海外派遣	10
(1) 留学期間別実績	10
(2) 学生の所属学部別実績	10
(3) 協定校等への留学実績（1学期以上）	10
(4) 海外派遣 実施部局別実績	11
7. 国際交流事業の経費助成	13
8. 国際キャリアアッププログラム	14
(1) Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム2015	14
(2) フィールドスタディ（ベトナム）	15
(3) 海外語学研修（オーストラリア・モナシュ大学）	15
9. 国立大学改革強化推進事業	16
(1) 三大学連携による人材育成事業	16
(2) 国際人材育成プログラム形成のための助成	17
(3) 海外留学促進強化	18
①国際協力体験プログラム	18
②三大学合同合宿【留学説明会】	18
(4) 外国人留学生受入体制強化	19
「サバイバル日本語講座」	19
(5) 教育課程の国際化推進	19
①海外短期語学研修（米・オーストラリア）	19
②国内語学講座（TOEFL・IELTS）	20
10. 教育・研究活動を通じた国際貢献活動	20
11. 国際交流活動（海外大学および地域団体）	21
(1) 三重大学国際交流デイズ	
（国際キャリアアッププログラム報告会、テニス大会、留学生交流会）	21

(2) 津市国際交流デー「国際屋台村」	21
(3) ヨースト氏講演会	22
(4) 留学フェア in 名古屋	22

II. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

1. 教養教育機構	23
(1) 英語特別プログラム短期海外研修（シェフィールド大学）	23
(2) イングリッシュラウンジ	24
(3) 英語特別プログラム修了式・報告・交流会	25
2. 人文学部・人文社会科学研究科	26
(1) 人文学部と伊賀連携フィールドの企画	26
①忍者プロジェクト	26
②夏の文化体験研修	27
③秋の文化体験研修	28
④県立上野高校との交流活動「一日高校生」	28
(2) 人文学部外国人留学生インターンシップ事業	28
(3) その他	29
①人文学部留学生交流会	29
②四日市高校との留学生交流	29
3. 教育学部・教育学研究科	30
(1) 天津師範大学との国際交流	30
(2) ニュージーランド・オークランド大学教育学部との連携による海外研修および 教員の短期招へい	30
(3) ベトナムにおける高校理科教員養成のための科学教育支援	31
4. 医学部・医学系研究科・国際医療支援センター	32
(1) 医学・医学系研究科	32
(2) 国際医療支援センター	33
①整形外科インプラントの寄附	33
②国際的な医療講演会の開催	33
③外国人医療者の受け入れと教育	33
④海外での教育的講演や手術指導	33
5. 工学部・工学研究科	34
ベトナム・タイでの海外短期インターンシップの実施について	34
(1) 企業での研修について	34
(2) 現地大学との交流について	35
6. 生物資源学部・生物資源学研究科	36
(1) 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの開始	36
(2) フィジーを舞台にしたJICA草の根技術支援事業の終了	36
(3) 海女交流事業と韓国の済州大学との大学間国際交流協定の締結	36

(4) スリウィジャヤ大学のサマースクールの実施	37
(5) さくらサイエンス	37
(6) JICA ボランティアセミナー	37
7. 地域イノベーション学研究科	38
第7回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ (IWRIS2015)	38
8. 附属中学校	
2015年度天津市実験中学との国際交流	40

III. 国際交流センターの活動

1. 国際教育活動の概略	42
2. 日本語・日本文化教育	42
(1) 日本語研修(初級)集中コース	42
(2) 一般日本語教育コース	43
(3) 選択科目コース	44
(4) 留学生受け入れプログラム	44
(5) コンピューター室を利用した教育指導	45
(6) 日本語レベル判定試験とオリエンテーション	45
(7) 市民開放授業	46
3. 英語による国際教育科目	47
4. 地域との国際交流活動	48
(1) 留学生ホームステイプログラム(セカンドホーム)	48
(2) 多文化理解イベント「Hand in Hand!みえの地球市民2015」	48
(3) 留学生による日本の学校での多文化理解授業	48
(4) サークル“てらこや”の活動	49

IV. 学生総合支援センターによる留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援業務

1. 留学生支援	50
(1) 2015年度留学生入学者数	50
(2) 在留資格認定証明書代理申請	50
(3) 留学生ガイダンスの実施	50
(4) 留学生の生活サポート	50
(5) チューター制度	51
(6) オフィスアワー制度	51
(7) 留学生住宅総合補償(機関保証制度)	51
(8) 私費外国人留学生優遇制度	51
(9) 奨学金に関する支援	51
(10) 留学生への就職支援	52
(11) 留学生会の実施	52
(12) 三重地域留学生交流推進会議の開催	52

(13) 留学生メールマガジンの配信	52
(14) 留学生研修旅行	53
(15) 日本文化体験	54
(参考) ベトナム国籍の交換留学生による留学報告書	55
2. 海外留学支援	57
(1) 交換留学生の授業料免除制度	57
(2) 交換留学の募集及び説明会	57
(3) 官民協働留学支援制度「～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」 第2期、第3期採択	57
(4) 官民協働留学支援制度「～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」 第5期募集説明会	58
(5) 奨学金に関する支援	59
3. 地域国際化支援	60

V. 資料

1. 学術交流協定一覧（大学間・部局間別）	61
2. 三重大学生の海外派遣実績	64
3. 国際的な学術交流活動・教育活動に関する教職員の研究・教育業績	66
4. 名簿	73
(1) 国際交流センター教員名簿	73
(2) 職員名簿	73
(3) 国際関連委員会名簿	74
5. 歴代国際交流担当理事 国際交流センター長 一覧	75
6. 三重大大学の国際化に関する目標および達成のための措置	76



2015年度三重大学国際交流年報の発刊にあたり

2015年度の年報を発刊するにあたり、大学の国際交流を担当する立場からご挨拶を申し上げます。

三重大学の国際交流の現状ですが、学术交流協定を締結した海外大学数が110大学を越え、来学する留学生数は年間350人を超えました。一方で本学から海外大学に一学事暦以上の留学をする学生数は伸び悩み、短期のフィールド・スタディやインターンシップへの参加が好まれる傾向にあります。

文部科学省が国立大学改革の方針の下に示した「三つの枠組み」では、本学は“地域に貢献する取組とともに、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で世界・全国的な教育研究を推進する大学”を目指すことを選択しました。また、文部科学省「知の拠点事業 (Center of community)」にも採択され、国際交流センターを含む組織改革による地域人材教育開発機構の設置が進められています。

このような状況のなかで、高等教育機関としての研究機能の維持発展、教育の質保証と魅力の創出に不可欠な国際的な活動をいかに展開していくかが、三重大学の将来を左右する重要な課題であると認識しています。

本学の国際交流の方向性として、地域志向型人材育成と世界に通用する学術活動の融合を図り、地域にある教育資源を活用した国際標準の教育活動と地域にあるグローバル課題にアプローチする研究活動の実践が求められていると思います。そして、これらの学術活動を通じて地域社会と国際社会で活躍できるグローバル人材の養成が求められています。

大学構成員一人ひとりにこのような意識を持っていただくことが大切であると思いますが、大学としても国際戦略本部のリーダーシップの下に今後10年間の中長期的な三重大学の国際戦略の策定に取り組み、2016年度中には公表する予定です。大学としての大きな国際交流の運営方針と学生・教員による個々の学術活動が機能的にリンクし、本学の国際的な活動が発展していけるよう努力したいと思います。

この年報は、学内の国際交流担当部門の活動記録にとどまらず、大学構成員全員が全学的な活動成果を俯瞰し、それらの情報を共有することで部局間の枠を越えた連携や協力に活かしていただくことを目指しています。今後とも関係者のみなさまには、本年報に発刊の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い致します。

最後になりましたが、寄稿していただいたみなさま、本年報の編集担当者に感謝申し上げます。



堀 浩樹

国際交流担当副学長
国際戦略本部長

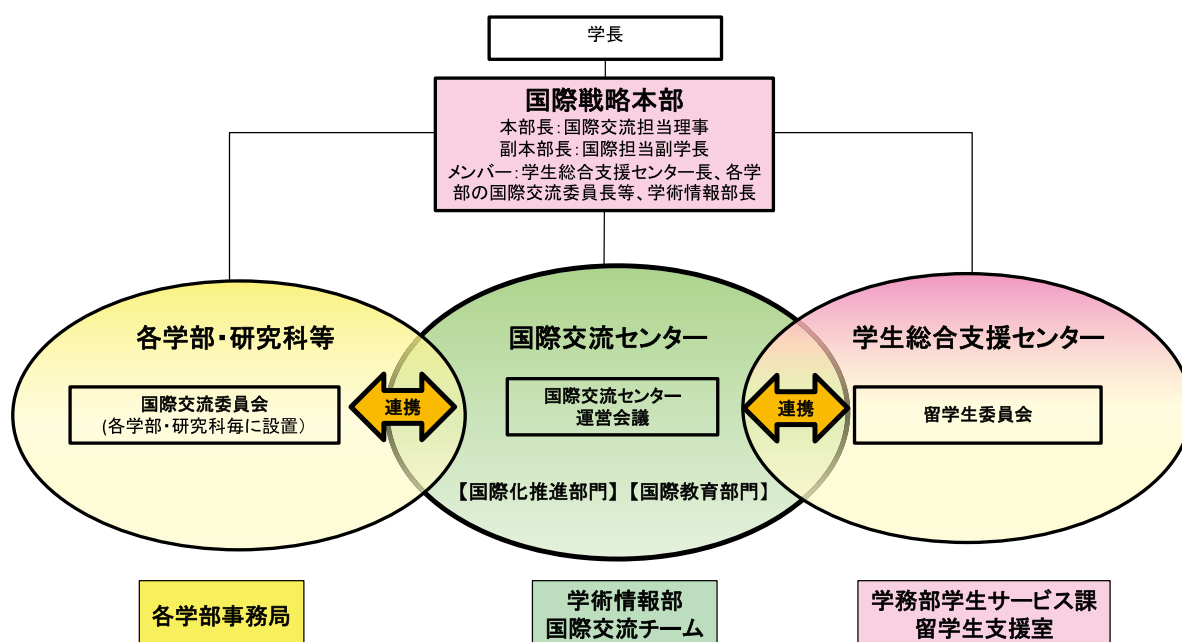


三重大学における国際化および国際交流

1. 国際化および国際交流の実施体制

国際化のさらなる推進と国際交流活動の活性化を図るために、2013年に国際化推進室を改組し、国際戦略本部を設置した。国際戦略本部においては主に国際化にかかる戦略や方針の策定を行い、右方針の元、各学部・研究科および国際交流センター、学生総合支援センターの連携により、日本人学生の派遣や留学生の受入、国際共同研究等を行っている。

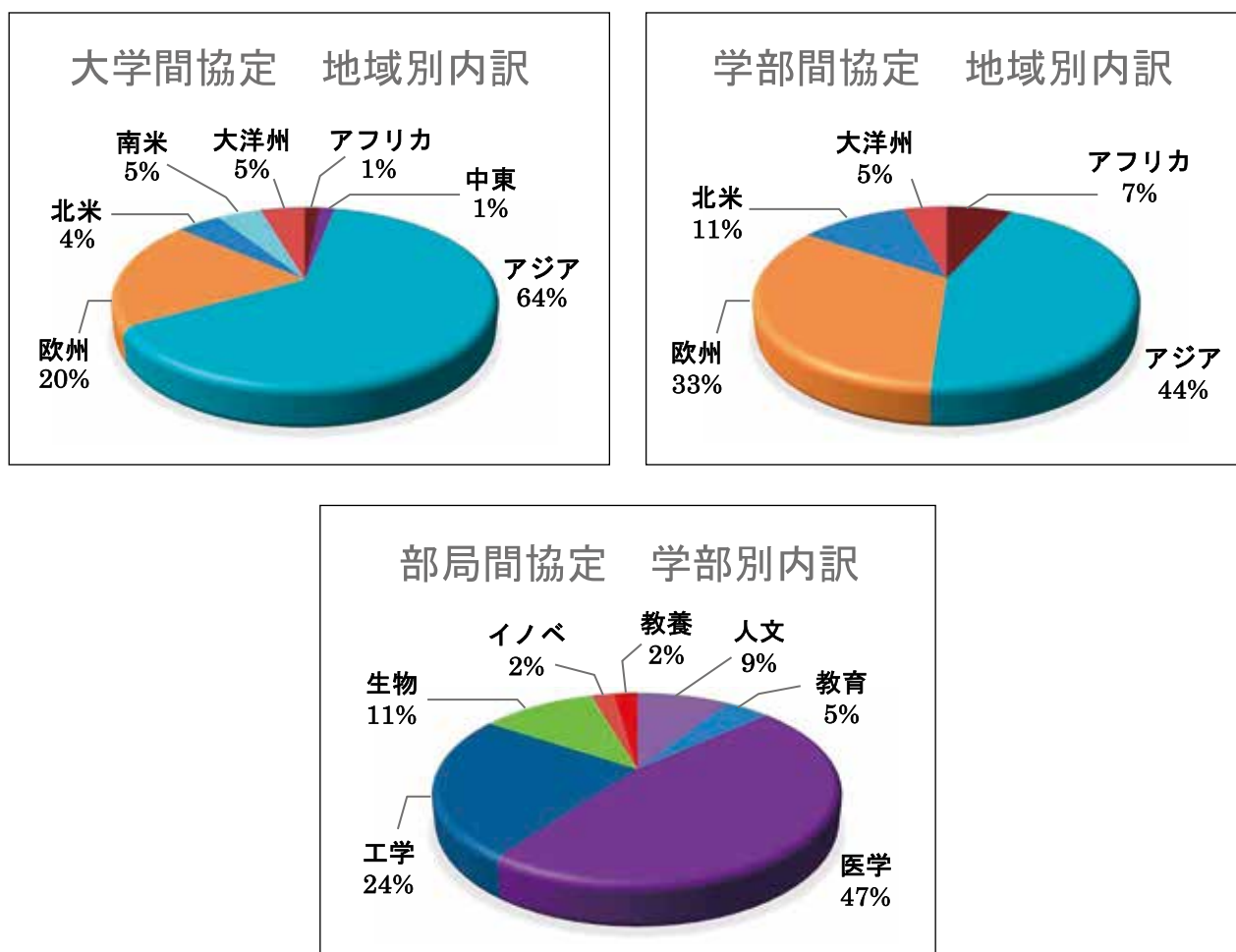
三重大学国際関係組織図(2014年4月1日)



2. 外国大学等との協定締結

(1) 概況

2016年3月末時点の大学間協定締結数は、24か国・地域、66大学・機関、部局間協定は23か国・地域45大学・機関となっており、協定大学数はあわせて、36か国・地域、111大学・機関に達した。大学間協定・部局間協定の地域別内訳及び部局間協定の学部別内訳は以下のとおり。（協定大学の一覧はV. 資料編を参照）



(2) 2015年度新規協定締結機関

2015年度には、下記のとおり新たに4か国・地域の大学・機関との大学間協定及び5か国の5大学・機関との部局間協定を締結した。

【大学間協定】

- ① ブラジル・サンパウロ大学（2015年7月7日締結）
- ② 台湾・金門大学（2015年7月13日締結）
- ③ 台湾・南台科技大学（2015年8月28日締結）
- ④ 韓国・済州大学（2015年9月14日締結）

【部局間協定】

- ① ベトナム・ホーチミン工科大学機械工学部、応用科学部、材料工学部（2015年4月20日締結）
- ② フィリピン・フィリピン大学マニラ校保健学部（2015年7月23日締結）
- ③ 英国・シェフィールド大学英語教育センター（2015年9月10日締結）
- ④ ミャンマー・ヤンゴン第2医科大学（2015年10月22日締結）
- ⑤ 中国・北京理工大学外国部学院（2015年11月16日締結）

3. 外国人教員短期招へいプログラムによる受入れ

三重大学の教育環境の国際化を図るとともに、教育活動の一層の進展に寄与するため、これまで交流の実績を有する海外の教育・研究機関および将来的に協定締結を視野に入れている海外の教育・研究機関からの外国人教員の短期招へいを推進している。短期招へい外国人教員の職務は、(1) 受け入れ学部等における学生への教育及び学生への研究指導 (2) 本学の国際化教育と国際化推進活動への助言及び支援 (3) 部局専門領域での教育参加のほか、教養教育及び他部局での教育機会創出の奨励である。

2015年度の外国人教員短期招へいプログラムは以下の通りである。

		研究者氏名	所属大学	国籍	身分	受入期間	
1	人文学部	許 家豪	中山大学（台湾） 日本研究センター	中華民国（台湾）	研究員	2015.4.10	2015.7.5
2	教育学部	Cleary, Farrell David	オークランド大学	ニュージーランド	非常勤講師	2015.9.27	2015.11.30
3	医学系研究科・医学部	Isaac, Cann,	イリノイ州立大学	アメリカ	教授	2015.7.6	2015.7.24
			イリノイ州立大学	アメリカ	教授	2015.12.18	2016.1.15
4	工学研究科・工学部	Siti Ilyani binti Rani	タチ大学	マレーシア	学部長	2016.1.8	2016.2.5
5	生物資源学研究科・生物資源学部	ルイス アルフレド イコチェア サラス (Luis A. Icochea Salas)	国立ラ・モリーナ 農業大学	ペルー	教授	2016.2.23	2016.4.23

4. 外国人研究者受入れ

学術研究の国際交流を推進するため、教員と共同して研究に従事する外国人研究者の本学への受入れに関し必要な事項を定めている。本学の外国人研究者として受け入れることのできる者は、

- (1) 本学の教授、准教授、講師、助教又は助手と同等以上の資格があると認められる者。
- (2) 原則として1か月以上にわたり学部等で行う共同研究に貢献できる者。

外国人研究者は、あらかじめ定められた研究計画に従い、共同研究に従事している。

2015年度の外国人研究者受入れは以下の通りである。

受 入 部 局	人 数	国 籍 内 訳
人文学部	5	韓国・中国・フランス
医学系研究科	2	インド・中国
工学研究科	12	アルバニア・タイ・中国・フランス・ベトナム
生物資源学研究科	8	タイ・中国・バングラデシュ
地域イノベーション学研究科	1	タイ
附属病院	2	タイ
計	30	

I. 三重大学における国際化および国際交流



国際交流協定締結機関 International Partner Institutions

- ◎江蘇大学
Jiangsu University
- ◎江南大学
Jiangnan University
- ◎上海海洋大学
Shanghai Ocean University
- 上海交通大学医学部
Shanghai Jiao Tong University
School of Medicine
- ◎瀋陽薬科大学
Shenyang Pharmaceutical University
- ◎西安理工大学
Xi'an University of Technology
- 清華大学熱機能工程系及び工力学系
Faculty of Thermal Engineering and
Engineering Mechanics, Tsinghua University
- 浙江大學理学院
College of Science Zhenjiang University

- ◎中国社会科学院日本研究所
Institute of Japanese Studies,
Chinese Academy of Social Sciences
- ◎天津師範大学
Tianjin Normal University
- 南開大学日本研究院
Institute of Japanese Studies, Nankai University
- ◎南京工業大学
Nanjing Tech University
- ◎北京外国語大学
Beijing Foreign Studies University
- 北京理工大学外国語学院
School of Foreign Languages, Beijing Institute of Technology
- 蘭州大学第2臨床医学院
The Second Medical College of Lanzhou University



大韓民国/Republic of Korea

- ◎世宗大学校
Sejong University
- ◎済州大学
Jeju National University
- ◎東国大学校
Dongguk University
- 釜慶国立大学校水産科学学部・環境海洋学部
College of Fisheries, College of Environmental
and Marine Science and Technology,
Pukyong National University
- ◎梨花女子大学校
Ewha Womans University



台湾/Taiwan

- ◎国立高雄師範大学
National Kaohsiung Normal University
- 真理大学財経学院
College of Finance and Economics, Aletheia University
- ◎中山大学
National Sun Yat-sen University
- ◎金門大学
National Quemoy University
- ◎南台科技大学
Southern Taiwan University of Technology



ベトナム/Viet Nam

- ◎外国貿易大学
Foreign Trade University
- ◎カントー大学
Can Tho University
- ◎ホーチミン市師範大学
Ho Chi Minh City University of Education
- ホーチミン工科大学機械工学部・応用科学部・材料工学部
Faculty of Mechanical Engineering, Faculty of Applied Science, and Faculty
of Marital Engineering, Ho Chi Minh City University of Technology
- ベトナム科学技術院(VAST)エネルギー研究所(IES)
Vietnam Academy of Science and Technology, Institute
of Energy Science



フィジー/Fiji

- ◎フィジー国立大学
Fiji National University
- ◎南太平洋大学
The University of the South Pacific



ニュージーランド/New Zealand

- オークランド大学教育学部
Faculty of Education,
The University of Auckland



アメリカ/ United States

- ウェイン州立大学医学部
Wayne State University School of Medicine
- 財団法人クリューブランドクリニック
医学生体工学ラーナー研究所
The Cleveland Clinic Foundation
Lerner Research Institute
- ニューメキシコ大学医学部
University of New Mexico School of Medicine
- ◎ネブラスカ大学リンカーン校
University of Nebraska - Lincoln
- ◎ノースカロライナ大学ウィルミントン校
University of North Carolina Wilmington
- ◎ハワイパシフィック大学
Hawaii Pacific University
- マーサー大学医学部
Mercer University School of Medicine
- ワシントン大学医学部
University of Washington School of Medicine



ペルー/Peru

- ◎カジェタノ・エレディア大学
Universidad Peruana Cayetano Heredia
- ◎国立ラ・モリナ農業大学
Universidad Nacional Agraria La Molina



ブラジル/Brazil

- ◎サンパウロ大学
University of Sao Paulo

◎大学間協定締結機関

24カ国・地域 66大学・機関

University Level: 24 Countries/Areas, 66 Institutions

●学部間協定締結機関

23カ国 45大学・機関

Faculty Level: 23 Countries, 45 Institutions

総協定大学数

36カ国・地域 111大学・機関

Total of 36 Countries/Areas,
111 Institutions

2016年6月1日現在

As of June 1, 2016

I. 三重大学における国際化および国際交流

5. 外国人留学生数

三重大学の外国人留学生数は年々増加している。2015年11月1日時点での外国人留学生数は333名（うち女子193名）であり、前年同時期より17名増加、全学生数に占める割合は4.6%である。

国籍別では、中国からの留学生数が182名と全体の55%を占めるが、次いで、インドネシア、ベトナム、タイ、韓国等、東アジア・東南アジア諸国からの留学生が比較的多い。また、欧州地域からは、ドイツより13名の留学生を受け入れていることが特徴的である。

外国人留学生の学部別・国別内訳は下記のとおり。

(1) 学部別内訳

2015年11月1日現在

	学部		修士		博士		計
	正規生	非正規	正規生	非正規	正規生	非正規	
人文学部	11 (7)	43 (28)	11 (7)	11 (7)			76 (49)
教育学部	12 (11)	28 (24)	18 (17)	1 (1)			59 (53)
医学部			5 (3)	1 (1)	16 (7)		22 (11)
工学部	22 (4)	10 (4)	15 (3)	8 (2)	12 (2)		67 (15)
生物資源学部		10 (6)	29 (14)	4 (2)	25 (10)		68 (32)
地域イノベーション 学 研 究 科			6 (4)		1 (1)		7 (5)
国際交流センター		34 (28)					34 (28)
計	45 (22)	125 (90)	84 (48)	25 (13)	54 (20)	0 (0)	333 (193)

() は、内数で女子を示す。

(2) 国別内訳

	総数	(女子)
35 か国・地域	333	(193)

2015年11月1日現在

地域・国名		【学部】		【大学院】		【国際交流 センター】	計
		正規生	非正規生	正規生	非正規生	日本語・日本文化 研修生	
ア ジ ア	中 国	31 (13)	59 (47)	66 (42)	14 (8)	12 (10)	182 (120)
	インドネシア	1 (1)		18 (10)	1 (1)		20 (12)
	ベ ト ナ ム	2 (1)	4 (2)	5 (1)		8 (7)	19 (11)
	タ イ		4 (4)	9 (4)	1	2 (2)	16 (10)
	韓 国	7 (4)	1	5 (2)			13 (6)
	バングラデシュ			11 (2)			11 (2)
	アフガニスタン		2	7			9 (0)
	台 湾		4 (3)		1	2 (1)	7 (4)
	マレーシア	3 (3)		1			4 (3)
	ミャンマー			3 (1)			3 (1)
	インド			1 (1)			1 (1)
	カンボジア	1					1 (0)
	ネパール			1 (1)			1 (1)
	フィジー			1			1 (0)
	フィリピン					1 (1)	1 (1)
	ブルネイ			1 (1)			1 (1)
中 東	ラオス			1			1 (0)
	イ ラ ク			1			1 (0)
ア フ リ カ	トルコ			1			1 (0)
	エジプト		1	1			2 (0)
	ウガンダ		1				1 (0)
	ガーナ			1 (1)			1 (1)
	ガボン				1		1 (0)
	ギニア					1	1 (0)
	マリ共和国			1 (1)			1 (1)
北 米	メキシコ		1 (1)	1 (1)			2 (2)
	アメリカ合衆国					1 (1)	1 (1)
ヨーロッパ	ド イ ツ		7 (3)		1	5 (4)	13 (7)
	フ ラ ン ス		1 (1)	1	5 (3)		7 (4)
	ロ シ ア		2			1 (1)	3 (1)
	スウェーデン		2				2 (0)
	セルビア			1		1 (1)	2 (1)
	イギリス		1				1 (0)
	スペイン				1 (1)		1 (1)
	ハンガリー		1 (1)				1 (1)
合 計		45 (22)	91 (62)	138 (68)	25 (13)	34 (28)	333 (193)
		136 (84)		163 (81)		34 (28)	

正規生	非正規生
183 (90)	150 (103)

6. 三重大学生の海外派遣

2015年度の三重大学における日本人学生の海外留学者数は、計314名であった。そのうち協定校への半年以上の長期留学者数は、29名であった。昨年度より7名増加し、そのうち1年以上の派遣学生が19名と大幅に増加した。

短期留学プログラム（海外研修・語学研修等）への参加者数は、計278名であり、そのうち各部局で実施するプログラムへの参加者は188名である。国際交流が実施する国際キャリアアッププログラムとして、Tri-U、ベトナムフィールドスタディ、短期語学研修（オーストラリア、米国）などが実施され、参加者は39名であった。また、2015年度より教養教育機構が実施した英語特別プログラムへの参加者が51名あった。

留学期間別、学生の所属学部別、実施部局別の実績は下記のとおり。

(1) 留学期間別実績

区 分	派遣学生数
1年以上	19
6ヵ月以上1年未満	10
3ヵ月以上6ヵ月未満	7
3ヵ月未満	278
合 計	314

(2) 学生の所属学部別実績

部 局 別	3ヵ月以上(協定校等 への1学期以上の留学)	3ヵ月未満短期研修 (国際交流実施分)	3ヵ月未満短期研修 (教養教育実施分)	3ヵ月未満短期研修 (各学部実施分)	計
人文学部・人文社会科学研究科	22	12	13	37	84
教育学部・教育学研究科	0	5	4	27	36
医学部・医学系研究科	2	2	11	83	98
工学部・工学研究科	11	6	7	36	60
生物資源学部・生物資源学研究科	1	14	16	5	36
地域イノベーション学研究科	0	0	0	0	0
計	36	39	51	188	314

(3) 協定校等への留学実績（1学期以上）

部 局 別	派遣学生数	渡航先内訳
人文学部・人文社会科学研究科	22	国立高雄師範大学（台湾）・ジャウメプリメル大学（スペイン）・ リール第3大学（フランス）・ルンド大学（スウェーデン）・ ライプツヒ大学（ドイツ）・ノースカロライナ大学（米国）・ セントラルランカシャー大学（英国）・サンパウロ大学（ブラジル）・ ハイデルベルク大学（ドイツ）・ボーフム大学（ドイツ）・ カセサート大学（タイ）
医学部・医学系研究科	2	タスマニア大学（オーストラリア）・オークランド大学（ニュージーランド）
工学部・工学研究科	10	Technical University Munich（ドイツ）・クリーブランドクリニック（米国）・ Bulgarian Academy of Sciences（ブルガリア）・パドヴァ大学（イタリア）・ ウィスコンシン大学ミルウォーキー校/ヨーク大学（米国/英国）・ ミシガン大学（米国）・バレンシア州立工芸大学（スペイン）
生物資源学部・生物資源学研究科	1	ハイデルベルク大学（ドイツ）
計	35	

(4) 海外派遣 実施部局別実績

(1) 国際交流センター				
Tri-U国際ジョイントセミナー & シンポジウム	江蘇大学 他	中国	6日	12
ベトナムフィールドスタディ	ホーチミン市師範大学他	ベトナム	13日	10
短期語学研修（英語）	モナシュ大学	オーストラリア	28日	14
短期語学研修（英語）＊三大学連携プログラム	ノースカロライナ州立大学	米国	21日	1
短期語学研修（英語）＊三大学連携プログラム	モナシュ大学	オーストラリア	28日	2
国際交流センター 計				39
(2) 教養教育機構				
短期語学研修（英語）	シェフィールド大学	英国	22日	51
教養教育機構 計				51
(3) 人文学部				
ドイツ語文化研修	エアランゲン・ニュルンベルク大学	ドイツ	1ヵ月強	4
短期語学研修（英語）	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ	英国	18日	4
短期語学研修（中国語）	国立高雄師範大学	台湾	15日	18
ドイツフィールドワーク	ボーフム大学他	ドイツ	6日	11
人文学部 計				37
(4) 教育学部				
短期語学研修（中国語）	天津師範大学	中国	13日	15
短期語学研修（英語）	オークランド大学	ニュージーランド	9日	12
教育学部 計				27
(5) 医学部・医学系研究科				
海外臨床実習	コンケン大学	タイ	4週間	3
海外臨床実習	ワシントン大学	米国	4週間	5
海外臨床実習	ムヒンビリ健康科学大学	タンザニア	4週間	5
海外臨床実習	ザンビア大学	ザンビア	4週間	3
海外臨床実習	上海交通大学	中国	4週間	2
海外臨床実習	シャルジャ大学	アラブ首長国連邦	4週間	6
海外臨床実習	ベルギア大学	イタリア	4週間	3
海外臨床実習	ラオス健康科学大学	ラオス	4週間	4
海外臨床実習	タマサート大学	タイ	4週間	8
海外臨床実習	カーディフ大学	イギリス	4週間	3
海外臨床実習	アムリタ大学	インド	4週間	3
海外臨床実習	サンパウロ大学	ブラジル	4週間	3
海外臨床実習	フリンダース大学	オーストラリア	4週間	2
海外臨床実習	フィリピン大学マニラ校	フィリピン	4週間	1
海外臨床実習	フィジー国立大学	フィジー	4週間	5
(海外臨床実習 計 56名)				
早期海外体験実習	アーナンダ病院	インド	10日	3
早期海外体験実習	フライブルク応用科学カトリック大学	ドイツ	9日	6
早期海外体験実習	コンケン大学（タイ）・ラオス健康科学大学（ラオス）	タイ・ラオス	8日	3

I. 三重大学における国際化および国際交流

早期海外体験実習	レイテ大学	フィリピン	8日	2
早期海外体験実習	チェンマイ大学	タイ	8日	7
早期海外体験実習	ワシントン大学	米国	6日	5
(早期海外体験実習 計 26名)				
リサーチインターンシップ	ハーバード大学	米国	21日	1
(リサーチインターンシップ (医学) 計 1名)				
医学部 計				83
(6) 工学部・工学研究科				
国際インターンシップ・海外留学支援事業	Technical University Munich	ドイツ	320日	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	クリーブランドクリニック	米国	201日	2
国際インターンシップ・海外留学支援事業	バレンシア州立工芸大学	スペイン	62日/ 148日	2
国際インターンシップ・海外留学支援事業	Worcester Polytechnic Institute Massachusetts Institute of Technology	米国	76日	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	パリ工芸大学	フランス	68日	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	東ワシントン大学	米国	52日	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	Cincinnati Childrens Hospital Medical Center	米国	38日	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	北京理工大学	中国	33日	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	国立放射光研究センター	台湾	32日	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	タチ大学	マレーシア	31日/ 32日	6
国際インターンシップ・海外留学支援事業	UNIVERSITI SULTAN ZAINAL ABIDIN	マレーシア	31日	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	パドヴァ大学	イタリア	31日	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	ミシガン大学ディアボーン校	米国	30日	2
国際インターンシップ・海外留学支援事業	Universiti Malaysia Perlis	マレーシア	29日	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	Pathumwan Institute of Technology (パトムワン工科大学)	タイ	28日	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	DEG (DESIGN ENVIRONMENT GROUP ARCHITECTS)	シンガポール	26日	3
(国際インターンシップ・海外留学支援事業 計26名)				
海外短期インターンシップ	三重金属工業・エバ工業	ベトナム	9日	6
海外短期インターンシップ	ヤマモリ・百五銀行・日本トランシー・安永	タイ	9日	5
(海外短期インターンシップ計 11名)				
工学部 計				37
(7) 生物資源学部・生物資源学研究科				
フィールドサイエンス実習	ボゴール農科大学 他	インドネシア	8日	3
国際インターンシップ	南太平洋大学	フィジー	50日	1
生物資源学部 計				4
合 計				278

7. 国際交流事業の経費助成

国際交流推進経費より、各学部の国際交流の取り組みに対し、1学部・研究科あたり50万円、計6件の助成を行った。これらの事業は、3月23日国際交流事業助成費採択者報告会にて、各事業担当者より学長・国際交流担当副学長へ充実した国際交流活動の取組みが報告された。助成対象案件は以下の通りである。

2015年度三重大学国際交流事業経費助成制度

番号	学部/研究科	事業担当者		事業の名称	対象国	プログラム種別	実施期間
1	人文学部	教授	大河内 朋子	フィールドスタディー「ドイツにおける排外主義の克服」	ドイツ	教職員派遣 (1名)	2015.9
2	教育学部	准教授	荒尾 浩子	オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修の実施	ニュージーランド	学生派遣 (14名)	2015.8.31 ～9.10
3	医学系研究科	教授	堀 浩樹	医学科早期海外体験実習(アジア諸国およびアメリカでの研修プログラム)および協定校からの短期学生受入事業	ニュージーランド	学生派遣 (6名)	2015.8
4	工学研究科	教授	金子 聡	マレーシア Universiti Sultan Zainal Abidin (UniSZA) と三重大学工学研究科との学生・研究交流の可能性の模索	マレーシア	教職員派遣 (2名)	2015.6
5	生物資源学部	教授	後藤 正和	海外大学学生のためのショートスクール&インターンシップ推進	インドネシア	留学生受入 (20名)	2015.11 ～2016.3
6	地域イノベーション学研究科	研究科長	小林 一成	第7回地域イノベーション学に関する国際ワークショップの開催	台湾	外国教員受入 (3名)	2015.10

8. 国際キャリアアッププログラム

国際教育の一環として、Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム、海外フィールドスタディ、海外語学研修（英語）等の海外短期研修プログラムを毎年実施しており、これらを「国際キャリアアッププログラム」と総称している。また海外研修プログラム2件（Tri-U、ベトナムフィールドスタディ）や短期語学研修（モナシュME）を新たに共通教育の単位付与対象とした。また、入学後の早い段階から学生が海外に目を向ける機会を増やすために、共通教育の新規科目「国際協力入門」「メディアと日本」「国際理解実践」を開設した。

(1) Tri-U 国際ジョイントセミナー & シンポジウム 2015

第22回 Tri-U 国際ジョイントセミナー&シンポジウムは、三重大学（日本）、チェンマイ大学（タイ）、江蘇大学（中国）の3大学が交代でホストをしている学生のための国際交流を兼ねた論文発表会である。2011年度からは新たにボゴール農科大学（インドネシア）がホスト校に加わった。

4月に説明会が開催され、参加希望者は研究論文の要旨を提出し、英語による面接を経て参加者が決定される。集中講義を受け、英語による論文を作成し、発表練習や催し物の準備を皆で行う。現地では、ホスト校より歓待を受け、各テーマについての論文発表を行い、参加者間で熱心な意見を交わした。参加者には交通費、学会参加費など奨学金10万円が支給される。

2015年度は中国・江蘇大学にて10月18日～23日の日程でジョイントセミナー&シンポジウムが開催された。6カ国から参加があり総勢170名のシンポジウムとなり、三重大学からは教職員8名と学生13名が参加した。



(2) フィールドスタディ（ベトナム）

急速な経済発展を遂げるベトナムは、日本との関係も経済、社会、国際協力等、様々な分野で深まっており、日本政府のODA援助受取額はトップクラス、1000社以上の日本企業が進出している。2015年度は、9月に10名の学生がハノイとホーチミンを約2週間訪問し、ホーチミン師範大学生との合同調査・発表、JICAの開発援助プロジェクト（ホーチミン都市鉄道プロジェクト）や青年海外協力隊の活動現場視察、日系企業駐在員との意見交換等を行った。



(3) 海外語学研修（オーストラリア・モナシュ大学）

本研修は2015年度より、新たに三重大学向けに開発され、三重大学教養教育で単位認定されたプログラムである。2015年8月に、各学部の1年生から修士まで計14名の学生が4週間参加した。最初の1週目で三重大学の特別クラスを受講後、2週目からは、世界中から集まった学生とともに、レベル別のクラスで英語の基礎技能（読む・書く・聞く・話す）や論文作成等のアカデミックスキルを学んだ。週末には、ホームステイ先の家族との交流や、フィールドトリップなどオーストラリアの生活、文化、自然を満喫した。



9. 国立大学改革強化推進事業

「アジアを中心とする国際人材育成と大学連携による国際化の加速度的推進」

名古屋大学、愛知教育大学、三重大学の三大学連携による「アジアを中心とする国際人材育成と大学連携による国際化の加速度的推進」事業が国立大学改革強化推進事業として2012年度に採択された。実施期間は2012年度から2017年度の6年間である。2015年度は、三大学連携事業として企画・実施された教職員向け研修および学生向けの語学・国際体験研修のうち、三重大学からは教職員11名、日本人学生59名、留学生33名、計103名が合計17プログラムに参加した。

三重大学による企画事業としては、JICA 中部なごや地球ひろばでの「国際体験ワークショップ」や、三大学合同合宿「留学説明会」を行った。

2015年度における本事業の主な活動（三重大学実施分）および成果は後述の通り。

(1) 三大学連携による人材育成事業

名古屋大学主催「名古屋大学海外事務所現地ミーティング」への参加

2016年1月28日から30日、上海の中国交流センターで、名古屋大学海外事務所現地ミーティングが開催され、本学からは3名の事務職員が参加し大学での取り組みについて発表を行った。

名古屋大学と国立大学改革強化推進事業で連携している愛知教育大学、岐阜大学からの参加もあり、現地での情報交換が活発に行われた。

2015年度 国立大学改革強化推進事業

2016年3月24日現在

No.	期間		回数	内 容	実施・開催場所	参加人数			種別
	(自)	(至)				教職員	日本人学生	留学生	
1	5月9日	7月4日	9回	サバイバル日本語講座(前期)	三重大学総合研究棟Ⅱ教室			11	学生対象 語学講座 (国内)
2	6月13日	7月18日	6回	TOEFL-iBT 入門クラス	ベルリッツ栄ランゲージセンター		8		
3	8月7日	8月8日	2回	TOEFL-iBT 応用クラス	名古屋大学東山キャンパス国際棟		0		
4	8月17日	8月28日	10回	留学準備 IELTS 講座・夏	名古屋大学東山キャンパス国際棟		2		
5	10月17日	12月12日	8回	サバイバル日本語講座(後期)	三重大学総合研究棟Ⅱ教室			16	
6	11月7日	12月19日	7回	TOEFL 週末講座(後期) 初級	三重大学総合研究棟Ⅱ教室		10		
7	11月7日	12月19日	7回	TOEFL 週末講座(後期) 上級	三重大学総合研究棟Ⅱ教室		4	5	
8	11月21日		1回	留学対策 IELTS 週末1日講座	名古屋大学東山キャンパス国際棟		2		
9	2月16日		1回	英語スピーキング自習対策講座	名古屋大学東山キャンパス国際棟		1		
10	3月11日	3月24日	9回	留学準備 TOEFL-iBT 講座・春	名古屋大学東山キャンパス国際棟		1	1	

I. 三重大学における国際化および国際交流

11	8月7日	9月6日	豪州モナシュ大学（GPP）	オーストラリア モナシュ大学		2		学生対象 語学講座 （海外）
12	8月30日	9月19日	米国ノースカロライナ州立大 学短期研修	アメリカ合衆国 ノースカロライナ州 立大学		1		
13	6月20日		国際協力体験ワークショップ	JICA中部なごや 地球ひろば	1	12		学生対象 ワー ク ショップ・ 研修
14	12月6日		国際交流学生シンポジウム	JICA中部なごや 地球ひろば		1		
15	2月20日	2月21日	合宿留学説明会	三重マリンセンター	7	14		学生・教 職員対象 研修
16	5月13日		修士・博士課程で困らないた めに 科学技術英語の基本「工学部 の英語」	名古屋大学 IB大講義室		1		
17	1月28日	1月29日	第1回海外事務所現地ミ ー ティング	中国交流センター	3			
合 計					11	59	33	103

(2) 国際人材育成プログラム形成のための助成

本事業予算を活用して三重大学各学部・研究科における国際人材育成プログラムの策定経費を助成した。学内公募を経て6件のプログラムが形成され、次年度以降の学生の海外派遣および留学生受入に関する全学的な基盤が拡大された。これらは国際交流事業経費助成と共に3月23日、国際交流事業助成費採択者報告会にて、各事業担当者より学長・国際交流担当副学長へ充実した国際交流活動の取組みが報告された。

国立大学改革強化推進事業により形成を支援した三重大学の国際人材育成プログラム

No.	学部/研究科	事業名	形成プログラム種別	対象国
1	人文学部	国立高雄師範大学における夏期中国語文化研修での学生指導と台湾におけるインターンシッププログラム構築のための調査	教職員派遣（2名）	中国
2	人文学部	ブラジル・スタディツアー企画のための準備調査（サンパウロ大学他）	教職員派遣（1名）	ブラジル
3	教育学部	シンガポールにおける海外教育研修実施に向けた調査（南洋理工大学国立教育学院）	教職員派遣（2名）	シンガポール
4	医学系研究科	日緬医学交流センターの設立のための準備・予備調査（ヤンゴン第一医科大他）	教職員派遣（3名）	ミャンマー
5	工学研究科	三重大学・西安理工大学連携によるアクティブ・テラヘルツ・メタマテリアルの共同開発	教職員派遣（1名）	中国
6	生物資源学研究科	資源循環学科国際開発資源学教育コースのための海外カリキュラム編成事業（スリウィジャヤ大学・バジャジャラン大学）	教職員派遣（2名）	インドネシア

I. 三重大学における国際化および国際交流

(3) 海外留学促進強化

① 国際協力体験プログラム

JICA 中部との連携締結により、JICA 中部なごや地球ひろばにて、国際協力体験プログラムが開催された。三重大学からは国際協力やアクティブ・ラーニングに関心のある学生・教職員が13名参加した。青年海外協力隊の体験談を聞き、シリアの厳しい現状を知ったことで大きな衝撃を受けた学生が数多くいた。また、体験ゾーン見学やウガンダの給食を実際に食べ、世界の現状や国際協力に対する理解を深められた等の感想が寄せられた。



またこの開催を受け、秋には学生たちが主体となり、国際交流学生シンポジウムがJICA 中部なごや地球広場で行われ、大盛況での開催となった。

② 三大学合同合宿【留学説明会】

2016年2月20・21日に、三重マリンセンター（河芸マリーナ）で、留学を希望する学生を対象に合宿形式で説明会を開催した。留学をもっと身近にとらえてもらうことができるように、留学経験者の体験談交えて、留学に必要な講義を2日間かけて開講した。堅苦しい座学だけではなく、ゲーム形式でお互いに意思伝達をおこなったり、渡航前の安全対策等、具体的に海外留学をイメージできるような説明会となった。学生同士が不安に感じている事や率直な考えを意見交換することで、今まで相談できなかった留学に関する悩みを相談できる仲間が増えた。



(4) 外国人留学生受入体制強化

「サバイバル日本語講座」

外国人留学生を対象とした「サバイバル日本語講座」が2014年度より開講されている。この講座は、学生だけでなく、研究者として来日し日本語の授業を学ぶ時間が無い外国人たちも対象とすることで、日本の生活で困らないよう、配慮したものである。2015年度は、前期11名、後期16名の新渡日の留学生たちが土曜日午前の授業を毎回熱心に受講した。留学生の多い後期は、定員を上回る応募があった。受講者たちからは、日常での買い物をするのにとっても役立った、もっと長い期間続けて欲しいなど、多くの声が寄せられた。



(5) 教育課程の国際化促進

① 海外短期語学研修

海外語学研修（米国・ノースカロライナ州立大学）

本研修は国立大学改革強化推進事業による、名古屋大学開発プログラムのノースカロライナ州立大学短期研修である。海外語学ビジネス研修プログラムで、三重大学からは1名の学生が参加した。2つのレベル別語学講習から構成され、午前は日本人のみのクラス、午後は大学の日本語クラスと交流した。ビジネスセミナーやリサーチトライアングルパークへの訪問、またワシントンD.C.への週末旅行等もあり、多様なプログラムが行われた。全期間を通して大学の寮に宿泊し、語学面でも文化面でも参加学生にとっては刺激と発見に満ちた研修となった。



Global Professional Program（オーストラリア・モナシュ大学）



国立大学改革強化推進事業による、名古屋大学主催の将来グローバルな職場環境で働く事を希望する学生を対象とした短期集中プログラムである。名大の海外協定校である豪州モナシュ大学の短期語学研修が三重大・愛教大にも開放され、冒頭の1週間を三大学学生向けの特別プログラムとして合同学習する機会が設けられた。2015年8月から約1ヵ月間、2名の学生が三重大学から参加した。ビジネスレター、Eメールの書き方、ビジネスで必要とされるスキル、コミュニケーション能力の相違点、類似性について実践的に学んだ。オーストラリアの日本企業へも訪問し、現場で働く人へのインタビューを行った。

I. 三重大学における国際化および国際交流

② 国内語学講座

・留学希望者のための「Weekend TOEFL 講座」

将来的に留学を希望する学生のTOEFLスコアアップを目的とした留学希望者のための「Weekend TOEFL 講座」を開講した。2015年度は、前期は名古屋のベルリッツランゲージセンターにて初級クラスを8名が受講した。後期は三重大学での開催となったため、初級10名、上級9名と多くの学生が受講した。また、春休みには集中講座が名古屋大学キャンパスで開講され、三重大学より2名の学生が参加した。

・留学準備「IELTS 講座」

将来的に留学を希望する学生のIELTS 6.0以上の取得を目指し、留学の目的やキャリア構築などを深められるような講座である。2015年度は、夏の集中講座として開講され、三重大学より名古屋大学へ2名の学生が参加した。同時に留学準備として、学習方法や留学計画についてのグループ面談、個別相談も行われた。また秋には週末1日講座として開講され、2名の学生が受講した。

10. 教育・研究活動を通じた国際貢献活動

三重大学では「三重の力を世界へ」のモットーの下、アジア・アフリカをはじめとする開発途上国の発展に資する国際貢献事業にも積極的に取り組んでいる。これまで延べ150名以上の三重大学教員が国際協力機構（JICA）専門家として開発途上国に派遣されている。また、延べ130名以上の三重大学在学生・卒業生がJICA ボランティア（青年海外協力隊、シニアボランティア等）として開発途上国に派遣されている。

また、JICA 技術協力事業の一環として、アフガニスタン国未来への架け橋・中核人材育成プロジェクト（PEACE プロジェクト）（2012年～）、アフリカの若者のための産業人材育成イニシアティブ（ABE イニシアティブ）等の留学生受入事業を行っている。

2015年度に実施中・実施済の三重大学の主な国際貢献活動は以下のとおり。

教育・研究活動を通じた国際貢献活動 2015年度実績

2016年5月20日時点

対 象 国	案 件 名	期 間	学部	概 要
1 アフガニスタン	アフガニスタン国未来の架け橋・中核人材育成プロジェクト（PEACE）	2013年～現在	生物資源	アフガニスタン国のインフラ整備および農業・農村開発に資することを目的として関連省庁行政官および大学教員を研修員として受入れ、修士課程等で必要な知識と技術を習得するもの。2012年度2名、2013年度2名、2014年度2名、2015年度3名を受け入れている。
2 フィジー	ガウ島統合的開発支援事業：南太平洋しあわせ島づくり協力支援	2013年1月～2015年7月	生物資源	草の根技術協力事業としてJICAより受託し、フィジーの離島開発を総合的に支援。
3 ミャンマー	国際医療支援センターを通じた医療支援	2013年～現在	医学	マンダレー医科大学等に対して医学部教員を派遣し、医療技術の向上を支援。
4 ザンビア	ザンビア大学附属病院支援	2000年代～現在	医学	ザンビア大学附属病院に医学部教員を派遣し、先方医療スタッフの外傷予防技術等医療技術の向上を支援。
5 アフリカ大陸54カ国	ABE イニシアティブ修士課程及びインターンシッププログラム	2015年～現在	生物資源	アフリカにおける産業開発に資する日本とアフリカ各国間の人脈を形成し、日本企業がアフリカにおいて経済活動を進める際の先案内人となる高度産業人材の育成を目指す。2015年度2名を受け入れている。

11. 国際交流活動（海外大学および地域団体）

(1) 三重大学国際交流デイズ（国際キャリアアッププログラム報告会、テニス大会、留学生交流会）

12月19日（土）、学内テニスコートにて生物資源学研究科の王先生主催で、恒例の国際親善テニス大会を行った。21日（月）には、2015年度国際キャリアアッププログラムの報告会及び留学生と海女の交流会を環境情報科学館で行った。海外研修報告者たちによる発表はどれも魅力的な報告となった。留学生と海女さんとの交流会は前半伊勢志摩を舞台とした映画寅次郎物語で、留学生たちは楽しそうに鑑賞していた。後半は海女の活動の紹介と海洋環境を保全するための里海の取り組みを英語で紹介し、留学生との間で活発な質疑応答、意見交換を行った。パーティでは、留学生による自国のダンス披露や、ギター演奏が行われた。留学生たちは、ハラル料理に舌鼓をうち、楽しそうに談笑していた。



(2) 津市国際交流デー「国際屋台村」

10月18日、津市国際交流デーで、中国、インドネシア、ベトナムの留学生がそれぞれの国の伝統料理を振舞う「国際屋台村」を出店した。会場はお城西公園で、数日前から留学生たちは食材選びや民芸品の事前準備を行っていた。当日は天候にも恵まれて、外国人の市民の方を含む一般の方々が多く訪れとても賑わっていた。



I. 三重大学における国際化および国際交流

(3) ヨースト氏講演会

三重大学地域イノベーションホールにおいて、ジョージタウン大学 外交研究所シニアフェローのカシミール A. ヨースト氏をお招きして、「The Group of Seven (G7) and the Rise of the Rest (主要国首脳会議と新興国の台頭)」と題して講演会を行った。講演では、これまでの世界の動き、今後懸念される課題などからはじまり、伊勢志摩サミットに出席する主要国が抱える問題やサミットで期待されることについて説明が行われた。県内の高校生も講演会に参加し、四日市高校の学生たちも英語でヨースト氏に質問を行っていた。



(4) 留学フェア in 名古屋

外国人学生のための進学説明会が名古屋プライムセントラルタワーで行われ、三重大学からも参加した。中国国籍者が4割と次いでベトナム国籍の来場者が多かった。会場内は多くの外国人学生であふれ、三重大学のブースにも多くの留学生が並び熱心に話を聞き、資料を受け取っていた。





各学部・研究科等の主な国際交流活動

1. 教養教育機構

(1) 英語特別プログラム短期海外研修（シェフィールド大学）

教養教育では、2015年4月から英語特別プログラムを開始した。カリキュラム導入の背景には、(i)新教養教育カリキュラム理念であるグローバル化対応人材の育成を実現する、また、(ii)英語力上級者のさらなる実践英語力を養成するという2つの理由がある。

英語特別プログラムの特徴は以下の通りである。

- ・ 1年次4月時点でのTOEICの成績上位者を対象とする（希望者のみ）。
- ・ 通常の必修の英語の授業以外に、英語のネイティブ教員によるレベルの高い英語の授業を履修する。
- ・ アクティブ・ラーニング科目と通常の講義科目の一部も英語で受講する。
- ・ 1年間の準備を経て、春休みに3週間の短期海外研修に参加する（短期であっても効果的な研修を目指す）。

シェフィールド大学での短期海外研修は、2016年2月27日～3月19日、同大学英語教育センターにおいて実施された。合計51名の英語特別プログラムの学生が参加した。学部別の参加者は、人文学部が13名、教育学部が4名、医学部が11名、工学部が7名、生物資源学部が16名であった。今回が初めての海外研修、また、ほとんどの学生が未成年ということもあり、3名の教員が引率した。



Figure 1

参加者は、Pathwayという名称のアカデミック英語への入門コースに登録し、多国籍の留学生との混合クラスで研修を受けた（Figure 1）。



Figure 2

研修内容は、各種英語授業、大学教員による講義、日帰り研修旅行等で、研修期間中は、シェフィールド大学英語教育センターと連携しているホームステイ団体による斡旋により、イギリス人の家庭にホームステイした（Figure 2）。

Ⅱ. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

短期海外研修に対する学生からの評価は以下の通りであり、概ね良好な結果であった。シェフィールド大学の英語教育センターは、イギリス国内最大規模で、外部委託ではなく大学独自で運営され、その研修の質の高さには定評がある。総合的な満足度では、そのことが評価されていると考えられる。また、英語のリスニング力やスピーキング力が向上したと高く評価されているのは、同センターの実践的な研修内容に起因すると考えられる。また、同センターが、長年、地元のホームステイ団体からの協力を得ながら実施しているホームステイが、非常に高い評価を受けている。受け入れ家庭の多くが、採算度外視で、草の根レベルでの国際交流に興味を持っているということが反映された結果といえよう。

短期海外研修に関するアンケート結果

回答者数51名（1：あてはまらない～5：あてはまる）

総合して、短期海外研修に満足できた。	4.5
短期海外研修前の学内ガイダンスは適切であった。	3.6
短期海外研修を通して、英語のリーディング力が向上したと思う。	3.6
短期海外研修を通して、英語のリスニング力が向上したと思う。	4.5
短期海外研修を通して、英語のライティング力が向上したと思う。	3.6
短期海外研修を通して、英語のスピーキング力が向上したと思う。	4.6
短期海外研修の課外活動に満足できた。	4.2
ホームステイに満足できた。	4.7

(2) イングリッシュラウンジ

上述の通り、2015年度は英語特別プログラムの初年度ということもあり、参加学生に対してイングリッシュラウンジを開設した（Figure 3）。教養教育の非常勤講師が、2015年10月6日～2016年2月9日まで、計30時間担当した。期間中、のべ98名の学生が参加した。



Figure 3

(3) 英語特別プログラム修了式・報告・交流会

英語特別プログラムの修了式・報告会が、2016年5月11日（16：20～18：20）に教養教育120番教室で開催された。修了式（Figure 4）に続き、短期海外研修参加者によって、シェフィールド大学研修での内容や日常生活に関する報告が、グループ毎に行われた（Figure 5）。一部英語による発表も含め、工夫を凝らした報告の後、駒田学長による講評があった。最後に、新1年生の英語特別プログラムとの交流会が開かれた。



Figure 4



Figure 5

2. 人文学部・人文社会科学研究科

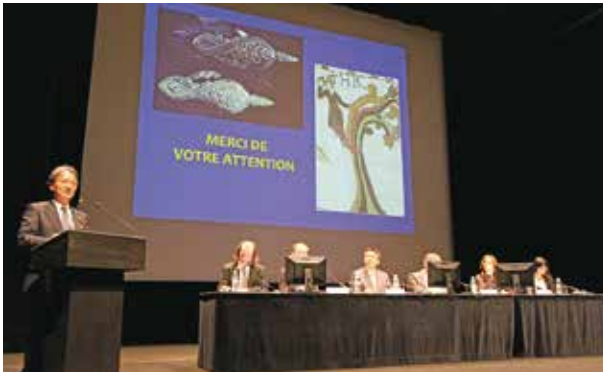
(1) 人文学部と伊賀連携フィールドの企画

① 忍者プロジェクト

忍者関連事業のなかの国際交流部門として以下の活動を行った。

7月3日・4日の両日、フランスのパリ日本文化会館において、国際交流基金との共催で「忍者文化研究プロジェクト レクチャー・デモンストレーション2015（パリ）」を開催した。3日のシンポジウム「情報と諜報－古代・中世の日欧比較－」では、山田雄司人文学部教授が「日本中世における忍びの活動」という発表を、Patrice Brunパリ第一大学教授が「ヨーロッパ古代国家の創出過程における情報と諜報活動の重要性」“L'importance de l'information et du renseignement dans le processus d'émergence de l'Etat archaïque en Europe”、Anne Nissenパリ第一大学教授が「ヨーロッパ中世初期における味方と敵方のスパイ 比較と疑問の交差によるアプローチ」“Amis, ennemis et espions dans le haut Moyen Âge européen. Approches comparatives et interrogations croisées”という発表を行い、人文学部の吉丸雄哉准教授の司会のもと、洋の東西における諜報活動の重要性が議論された。

4日は吉丸雄哉人文学部准教授が「忍びから忍者へ」という講演、川上仁一社会連携特任教授および伊賀流忍者集団・黒党が実演を行い、会場を埋め尽くす300人あまりの人々の目を釘付けにした。



「忍者文化研究プロジェクト レクチャー・デモンストレーション2015（中東欧）」は山田雄司と川上仁一が忍者講座を行った。どの会場も満員で質問が続き、テレビ放送もされた。

9月24日（木）ソフィア（ブルガリア）

9月26日（土）マリボル（スロベニア）

9月28日（月）ザグレブ（クロアチア）

9月30日（水）ブダペスト（ハンガリー）



Ⅱ. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

「忍者文化研究プロジェクト レクチャー・デモンストレーション2015（アメリカ）」は井上稔浩人文学部教授ならびに川上仁一が講演・実演を行い、アメリカでも忍者人気の高さを感じた。

10月 8日（木）イエール大学

10月 9日（金）ニューヨーク大学



「忍者文化研究プロジェクト レクチャー・デモンストレーション2015（ロシア）」は山田雄司、吉丸雄哉、川上仁一で講演・実演を行った。55番スポーツ学校では小中学生を中心に300名近い参加者があり、ロシア国立人文大学、東洋文献研究所というロシア最高の高等教育・研究機関でも満員となり、熱心な質問が続いた。

2月29日（月）ロシア国立人文大学（モスクワ）

55番スポーツ学校（モスクワ）

3月 2日（水）ロシア科学アカデミー東洋文献研究所（サンクトペテルブルク）



② 夏の文化体験研修

6月27日、留学生5カ国24名、サポート日本人学生6名が参加して、伊賀市内で文化研修を行った。午前は忍者博物館、忍者ショーを見学し、その後、忍者の皆さんの指導の下、全員が手裏剣投げを体験した。午後、和風の文化施設「栄楽館」に移り、ものづくりマイスターの建具師の方の指導による「組子づくり」に挑戦。木製の土瓶敷、筆立てを作った。



Ⅱ. 各学部・研究科等の主な国際交流活動

③ 秋の文化体験研修



伊賀上野天神祭の10月25日、上野商工会議所等の協力を得て、6カ国30名の留学生、サポート日本人学生5名が上野天神祭に参加し、祭りの「だんじり」曳きを中心とした文化体験を行った。上野高校生2名も現地で合流した。午前班と午後班に分かれ、各2時間半、9つの町の「だんじり」曳きのメンバーとして参加。それぞれ残りの半日は、自由に天神祭を見学し、伊賀上野の秋の好天の下、伝統行事を体験、堪能した。

④ 県立上野高校との交流活動「一日高校生」

7月8日および12月16日の両日に、三重県立上野高校において「一日高校生」事業を実施した。これは、高校のクラスに留学生が一日間だけ「編入学」し、始業時から終業時まで高校生と同じ授業を受け、クラス活動やクラブ活動にも参加し、それをとおして青少年間の人的・文化的交流を促進しようとするものであった。7月には1年生クラスに4カ国の留学生6名が、12月には2年生クラスに6カ国の12名がそれぞれ「編入学」して、英語、古典、保健、体育などの授業に挑戦し、放課後には卓球やバスケットボール、ESS、書道などのクラブ活動に加わった。留学生たちの中には、自分の高校生時代を思い出しながら、日本の高校生活と比較観察している者もいて、日本社会への理解を深める恰好の機会となった。



(2) 人文学部外国人留学生インターンシップ事業

人文学部に留学している留学生が、県内の企業でインターンシップを行った。参加した留学生は5名で、それぞれ8月中旬に3日間から1週間程度、四日市地域の金融機関やホテルなど5社で実習を行い、8月31日に修了式を開催した。留学生にとっては貴重な日本での職業体験となり、受け入れ企業にとっては職場の活性化につながり、双方にとって有意義な機会となった。



(3) その他

① 人文学部留学生交流会



11月27日に大学構内にある生協第1食堂にて、人文学部に留学している留学生が人文学部の学生や教職員と親睦を深めるための交流会を開催した。留学生43名、人文学部の学生13名及び教職員7名の合計63名が参加した。留学生と人文学部の学生及び教職員との交流だけでなく、留学生同士の交流の場として貴重な機会となった。

② 四日市高校との留学生交流

2016年3月5日に三重県立四日市高校で、人文学部などの欧米系留学生11名と四日市高校生1・2年生 52名が英語で交流した。まず、参加者全員でひな祭りのちらし寿司をつくり、食後は小グループに分かれて日欧の文化比較を行った。最後にグループごとに話し合いの成果をポスターにまとめて発表した。アンケート結果によると、参加した高校生のほとんどはこの企画が「とても良かった」と評価しており、留学生たちも若い高校生たちと楽しい一日を過ごすことができた。



3. 教育学部・教育学研究科

2015年度については、例年通り天津師範大学との国際交流協定に基づく活動の他、オークランド大学への研修、さくらサイエンスプランによるホーチミン市師範大学からの渠院・学生の招へいなどを行った。本報告では、特に、オークランド大学への研修とさくらサイエンスプランの業績について報告する。

(1) 天津師範大学との国際交流

天津師範大学との国際交流については、例年通りのスケジュールに沿って種々の行事と交流を行った。4月にダブルディグリープログラムによる3年生20名が来日した。また、6月28日に天津師範大学において正式2期生の卒業式が開催され、堀副学長、藤田学部長、宮岡教育学部国際交流委員会委員長が出席した。9月28日には三重大学において天津師範大学ダブルディグリー学生の学位授与式が開催され、4名の学生が卒業した。2016年3月7日～20日の語学研修では、前年度を上回る15名の参加があった。滞在中は、天津師範大学の配慮もあったことから、津師範大学の学生との交流についても非常に盛んで、双方の学生にとって、異文化を知る貴重な機会となった。

(2) ニュージーランド・オークランド大学教育学部との連携による海外教育研修および教員の短期招へい

ニュージーランドでは教育改革が進んでおり、自主的な学校経営や教員同士の協同的な機能開発が行われている。教育学部ではオークランド大学教育学部との連携により、2011年度より現地9日間の短期研修が始まった。プログラムは、ニュージーランドにおける教育制度に関する講義、オークランド大学近隣の学校現場の参観と省察、およびオークランド大学の授業参加からなる。本年度は第5回目を8月31日から9月10



日にかけて実施した。参加学生は12名で、引率には4名の教育学部教員があたった。このプログラムはJASSOの海外留学支援制度（短期派遣）に採択されたことから、参加学生は奨学金の補助を受けることができた。短期プログラムではあるが内容は充実しており、学生は教育制度や教育方法について改めて考えなおす機会となっている。訪問校では、「教師は教えるのではなく、サポートとファシリテートをすること、教師は学び続ける仕事であること」などを多くの教員から聞くことで、学生の意識がかわり、主体的に学習に取り組んでいた。

また、このプログラムでも指導をしてくださるオークランド大学のELA（英語教育センター）講師のCleary Farrell David先生が、本学の「外国人教員短期招へいプログラム」により9月27日から約2ヶ月間、三重大学を訪問した。滞在期間中には、教育学部授業科目である「英語リスニングⅡ」と「英語リーディングⅡ」の授業を担当した他、ゲストスピーカーとして「教育課程論Ⅱ」での講義やニュージーランド留学に向けた講演会を行った。英語学習をはじめ、ニュージーランドの教育に関する学習は学生に大きな刺激を与え、今後、オークランド大学への留学等を推進するための機会となった。

(3) ベトナムにおける高校理科教員養成のための科学教育支援

三重大大学の協定校である、ホーチミン市師範大学（HCMUP）からは、毎年、日本語研修として6－8名の日本語専攻の学生を受け入れている。しかし、2009年の締結後、これまでに教員養成に関する交流は行われていなかった。HCMUPから理科教育関係での交流活動の要望があったことから、「ベトナムにおける高校理科教員養成のための科学教育支援」のプログラムを企画した。この交流計画では、日本の理科教員養成に関する大学での講義や実験の受講をはじめ、高校の授業視察や高校生との交流を通じて、日本の高校理科教育を学ぶとともに、先端技術を紹介している科学館で体験活動を行うことで、探究型理科教育のあり方について考えてもらうことを目的とした。幸いにも日本科学技術振興機構による「さくらサイエンスプラン」の採択を受けることができ、プログラムを6月29日から7月8日にかけて実施した。HCMUPで物理教育または化学教育を専攻する学部生・大学院生から選抜された10名と引率教員2名が参加した。プログラムにおける報告会で、参加学生は、10日間の経験は今後のキャリアに重要であり、三重大大学での授業、高校訪問、科学館での体験などは、これから理科教育を進める上で、多くのアイデアを提供してくれ、また、将来、教員として教えるためのモチベーションとインスピレーションを与えてくれたと熱く語っていた。参加者全員が、このような機会を今後も継続してほしいと願っており、本学部としても継続を進めたいと考えている。



4. 医学部・医学系研究科・国際医療支援センター

(1) 医学部・医学系研究科

櫻井准教授（肝胆膵移植外科学・医学看護学教育センター）が最初にコンケン大学を訪問したのは、ちょうど10年前の2006年2月6日のことである。前任者の安藤先生（医動物学）より引き継ぎ、2014年よりコンケン大学との窓口教員を担当している。今回、改めてコンケン大学との協定更新を行った。肝胆膵移植外科の上本前教授や伊佐地教授（当時准教授）らとともにタイで初となる生体肝移植手術をコンケン大学で行った。それ以来三重大学医学部は、19回にわたりコンケン大学や地域の病院、診療所、ラオスを定期的に訪問し、手術指導や講義、研究会への参加を続けている。また、学生を引率して地域の医療活動（胆管がんスクリーニングプログラムなど）にも参加している。タイからは、三重大学で学ぶ医師や学生の受け入れを積極的に行っており、外科を中心に30名を超えるスタッフと多くの学生の受け入れを支援している。この協定が末永く続く事を祈っている。



(2) 国際医療支援センター

① 整形外科インプラントの寄附

2015年4月25日にネパールにて発生した大地震で8,000人以上の人が亡くなり、21,000人以上の人がけがをした。そのため、再び全国に呼びかけを行い、眠っているインプラントを収集した。その結果、スクリューやプレートなど約1,700万円の寄附が集まり、これらをネパール整形外科学会へ寄贈した。その後、ベトナム（Figure 1）とコンゴ民主主義共和国からも、個別の寄附の要請があり、これらの2カ国に対してインプラントを寄贈した。



Figure 1 寄附を受け取ったベトナムの先生たち

② 国際的な医療講演会の開催

2015年4月から12月までに、以下の合計8回の学内講演会を開催した。

1. 安藤勝彦先生「タイ・コンケン大学との交流とこの地域の特徴」
2. Said Ahmad Shah先生「Medical situation in Afghanistan」
3. Aung Ko Oo先生「Health in Myanmar」
4. 武田多一先生「ネパール地震後の医療支援」
5. Mohammed Omar Al Salihi先生「The Religion of Islam」
6. Si Thu先生「Myanmar Today」
7. 松林信幸先生「エチオピアの感染症」
8. ワキモト隆子さん「医療通訳の上手な活用法」

③ 外国人医療者の受け入れと教育

タイ医師1名、イラク医師1名、ミャンマー看護師（Figure 2）4名を三重大学に受け入れ、大学や関連病院において、臨床研修をサポートした。

④ 海外での教育的講演や手術指導

国際医療支援センター長は、ミャンマーに5回、タイに2回、中国に1回、ベトナムに1回ずつ赴き、教育的講演や手術指導を行った。



Figure 2 滅菌システムを見学するミャンマー看護師

5. 工学部・工学研究科

ベトナム・タイでの海外短期インターンシップの実施について

工学部・工学研究科では三重大学機能強化推進プロジェクト（事業B）採択事業「地域活性化に向けた人材育成ネットワーク構築プロジェクト」による海外短期インターンシップ研修生の派遣を行った。

本事業の海外短期インターンシップは、地域企業の魅力・活動を理解し、企業と学生の距離を近づけると同時に県内企業の海外活動に触れ、グローバル人材への理解・動機づけを行うことを目的に、三重県内への就職を希望する学生に地域企業の海外事業所で研修する機会を提供するもので大学院生1名、学部生10名が参加した。

三重県雇用促進部、三重県企業の海外事業所の協力のもと、研修先のベトナムとタイの2グループに分かれて2016年2月末に実施された。

(1) 企業での研修について

今回の研修にあたり、まず研修生は国内の事業所で企業説明や海外での業務の説明など事前研修を受け、地域企業への理解と現地研修に向けての準備を行った。

現地研修では、研修生は受入れ企業の現地事業所を訪問し、工場設備の見学や実際に作業を体験した。モノづくりの現場を体験すると同時に、企業が海外展開する利点やその課題、海外で働く日本人の体験談を現地で見聞するなど海外インターンシップならではの経験をとおり、グローバル人材への理解を深めた。

特にタイでは入社2年目という研修生と年齢の近い担当者から、タイに出向した場合、入社年数に関わらず幹部になることの苦勞と成長する喜びについてお話いただき、研修生にとってよい刺激になった。



ベトナム・エバ工業での研修

今回の研修先企業

ベトナム	三重金属工業・エバ工業
タイ	ヤマモリ・百五銀行・日本トランシィ・安永

(2) 現地大学との交流について

受入れ企業のご厚意により、現地大学の学生と交流する機会をいただいた。

ベトナムではハイフォン海洋大学とハノイ工科大学で大学設備を見学し、タイではタマサート大学とモンクット王ラカバン工科大学とのディスカッションが行われた。

タイのディスカッションでは、研修生の英会話力はタイ人学生に比べて高くはなかったが、自身の英語力とディスカッションの実力不足を実感した研修生からはこの経験を次につなげようとする意欲が感じられた。

今回の研修で、学生は海外と企業という日常ではない環境のなかで視野を広げ、みずから行動する意味を明確にし、グローバル人材への理解や動機づけという当初の目的を達成することができた。

参加学生からだけではなく受入れ企業からの評価も高く、工学部・工学研究科では継続実施に向けて取り組んでいる。



タイ・現地大学生とのディスカッション

6. 生物資源学部・生物資源学研究科

(1) 国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの開始

文部科学省の国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラムの2年目の募集及び選考が実施され、博士前期課程3名（インドネシアのパジャジャラン大学、ベトナムのカントー大学およびフィジーの南太平洋大学）、博士後期課程5名（インドネシアのパジャジャラン大学3名およびスリウィジャヤ大学2名）の合格者が10月から生物資源学研究科に入学、あるいは進学（ダブルディグリープログラム修了生3名）することが決まった。本プログラムは優秀な外国人留学生の早期確保を目的に開始されたもので、本研究科では海外の交流校4校を対象に博士前期課程3名、同後期課程5名の計8名の国費留学生の優先配置が向こう3年間可能となり、国際化の強力な推進力となることが期待されている。

(2) フィジーを舞台にした JICA 草の根技術支援事業の終了

生物資源学研究科がフィジー共和国の過疎に悩む離島の開発支援プロジェクトを JICA 事業として実施していたが、村々の成果を披露する「一村一品農業フェスティバル」を5月15日に開催してそのフィナーレを迎えた。事業の舞台となったガウ島はいまだ古き良き南太平洋島嶼域の伝統生活を色濃く残しているが、生活・交通インフラの整備が遅れ、産業としては農林水産業が主であるために若者の本島への人口流出や環境破壊などの問題に直面している。同事業は、研究科が国際協力機構（JICA）の「草の根技術協力事業（草の根協力支援型）」に提案し、2013年から2015年7月まで財政支援を受けて、一昨年新たに三重大学の交流校となった現地の南太平洋大学海洋学科および JICA フィジー事務所と共に、島の生物資源の有効利用による伝統生活の維持と、住民生活の持続的発展の手法構築を目指したものである。



(3) 海女交流事業と韓国の済州大学との大学間国際交流協定の締結

2015年9月11日から17日にかけて、本研究科の学生を含む26名の三重大学の学生が、外務省のJENESYS2.0事業として日韓国交正常化50周年を記念する目的で実施された日韓若者の海女文化交流事業で韓国に派遣された。派遣期間中、韓国の済州島及びプサン市の海女活動の視察と海女さんとの交流、済州大学、韓国海洋大学、東義大学の視察とさまざまな交流活動を行った。そして済州島では9月14日（月）に国立の済州大学を訪問し、学内施設や博物館視察の後、研究科が世話役部局となり済州大学との全学レベルの学術学生交流協定の締結を行った。



(4) スリウィジャヤ大学のサマースクールの実施

2015年9月5日から29日にかけて、インドネシアの交流校であるスリウィジャヤ大学の学生10名と教員2名が生物資源学研究科で「サマーコース2015」を実施した。サマーコース参加者は2週間にわたり附属農場に宿泊し、水稻の収穫や食品加工等の体験のほか、生物資源学部が共同研究を行っている企業での見学・実習、本学のスマートキャンパス実証事業関連施設の見学、環境ISO学生委員会との交流等を実施した。



(5) さくらサイエンス



2015年12月13日から27日にかけて、インドネシアの協定校である4大学（ボゴール農科大学、スリウィジャヤ大学、パジャジャラン大学およびハルオレオ大学）からの8名の学生と2名の若手教員からなるJSTさくらサイエンス研修生を受け入れた。今回のプログラムでは、日本の水産業、特に三重県でも重要な位置を占める水産養殖業を学び体験するということで各大学に参加者を募集したが、10名の参加者のうち8名が女性で、最近はいずれの国でも女性の社会進出熱が高まり元気な女性が増えているが水産分野でも例外ではないことが実感された。研修は本学のみならず練習船勢水丸、付帯施設水産実験所、三重県立水産高等学校、三重県水産研究センター等の協力も得て実施され、大変有意義な研修事業となった。

(6) JICA ボランティアセミナー

2016年1月6日（水）の午後、生物資源学アワーの時間帯を利用して生物資源学部の一年生240名を対象にJICA ボランティアセミナーがJICA 中部との共催で開催された。国際交流委員長からの生物資源学部の国際交流についての概要説明ののち、JICA 中部からJICA の行うさまざまな国際協力事業の紹介があり、その後、青年海外協力隊の帰国隊員の体験談の報告があった。今年は2009年から11年にかけてフィジー共和国のスバ市で環境教育の指導を行っていた伊勢市出身の岡谷佳澄さんに依頼し、現地での活動内容や苦勞、得られた成果や国際協力に対する思いなどを興味深い写真などを織り交ぜながら熱く語っていただいた。学生たちも非常に熱心に話に耳を傾け、また講演後の質疑応答も熱の入ったものとなった。

7. 地域イノベーション学研究科

(1) 第7回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ（IWRIS2015）

地域イノベーション学研究科では、2009年の研究科発足以来、本研究科が主催する国際ワークショップを毎年開催した。本年は、10月15日（木）と16日（金）に、地域イノベーションホールにて、「第7回地域イノベーション学に関する国際ワークショップ（The Seventh International Workshop on Regional Innovation Studies（IWRIS2015））」を開催した。

今回の国際ワークショップでは、台湾の真理大学（新北市）と南台科技大学（台南市）およびカンボジアのプノンベン大学（プノンベン市）から3名の教員による招待講演が行われるとともに、一般公演は本研究科を中心とした本学大学院生が英語で地域イノベーションに関する研究発表を19件行い、参加者数は、2日間で延べ138名となり、地域イノベーション関連の幅広い研究に対して熱心な討論が行われました。また、招待教員の皆様には、本研究科に関連した三重県内企業の訪問や本研究科教職員と学生が参加するバンケットにご参加頂き、国際的な産学連携に繋がる交流を深めました。



優秀論文賞表彰式（11月6日）

招へい講演内容

<招待講演題目、教員氏名（職位、所属）>

- a. Bitcoin Reconsidered: Quite a Bit of Innovation, Not a Bit of Coin
Tzu-Wen Sung (Ph.D. Assistant Professor, Department of International Business & Trade, Aletheia University, New Taipei, Taiwan)



- b. Suppression of Upper Urinary Tract Urothelial Carcinoma by the Ethanol Extract of Silkworm Pupa-Cultivated *Cordyceps Militaris* Fruit Body through G2/M-phase Arrest
Ting-Feng Wu (Ph.D. Professor, Department of Biotechnology, Southern Taiwan University of Science and Technology, Tainan, Taiwan)



- c. Attempt of the Royal University of Phnom Penh Japanese Department - Japanese and Japanese Culture Spread Caravans -
Loch Leaksmy (Head Department, Department of Japanese, Royal University of Phnom Penh, Phnom Penh, Kingdom of Cambodia)



8. 附属中学校

2015年度天津市実験中学との国際交流

【背景】 本校では、2006年度より中国天津市実験中学との国際交流を行っている。民族や文化の違いを尊重し、協働し合える、高いコミュニケーション能力を備えたグローバル人材としての生徒の育成を目指した、国際理解教育の一環としての取り組みである。

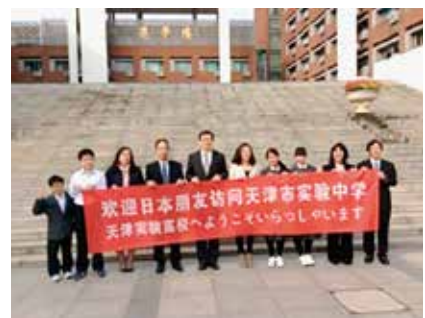
【実施内容】 隔年で互いの国・学校を訪問・交流し、相互理解を深める取り組みをしており、本年度は10月に、本校の生徒4名と教員3名が、天津市実験中学を訪問した。

6月：事前学習・教育の一環として、中国の文化や暮らし等について、教育学部の教員に話をいただいた。

7月：希望者を対象に、中国からの留学生を招いて、中国の文化・生活の紹介や中国語講座を行った。

8月：国際理解教育の一環として、キャンパスツアーと称し、本学の留学生3名と希望者で、大学内の様々な施設を見学しつつ、お互いに英会話でコミュニケーションを図った。後半は、各留学生からの母国についての話や、生徒からの質疑応答等を英語で行い、日常英会話の練習も行った。これらの一連教育等で、外国人教員から話を聞いたり、直接、留学生と交流したり、いずれでも質疑でき応答してもらったのコミュニケーション等での時間の経過の早さに、本校の生徒達は驚いていて、大変、有意義な教育・交流等となった。天津市実験中学への派遣生徒は、事前準備として、本校や日本文化を紹介するプレゼンテーションのための資料を作成し、練習を行った。

10月17日（土）から同月22日（木）までの6日間、天津市実験中学を訪問した。学校訪問の初日は、フィンランドとスウェーデンからの生徒と共に歓迎会に出席し、三重県の特産品である真珠をあしらった記念品を贈呈し、挨拶では、中国語が話せる本校の生徒が通訳として活躍した。毎週月曜日に行われている朝礼では、広々としたグラウンドに全校生徒が集まり、その大規模さにも驚かされた。朝礼後には授業が開始され、本校の生徒は、体育、音楽と英語の授業を受けた。体育では、北欧の生徒とバドミントンや太極拳を体験し、音楽では、現地の生徒、北欧の生徒と共に「茉莉花」の歌唱指導を受けたり、国別に歌唱したり、慣れない中国語に照れながらも皆の前で歌えて、歌を通じて相互交流を深めることができた。英語の授業は、特別クラスと通常クラスの参観であったが、ICTを利用した授業、現地の生徒がプレゼンテーションをしている様子や、オール・イングリッシュに近いやり取りでの様子を見て、本校の生徒達は英語の必要性を改めて感じたり、もっと英会話ができるようになりたいという刺激を受けていた様子だった。また、現地の生徒40名程に向けて、日本や日本の文化と本校について紹介した。日本の文化については、各生徒が、祭り、浴衣、食べ物と遊びについて分担して、パワーポイントで資料や写真を投影しながらプレゼンテーションをしたり、浴衣は、先ず、本校の生徒自身が着て見せたり、次に、現地の生徒に実際に着せたりしながら、自ずと談笑も見受けられた。折り紙もして、体験型・参加型の日本文化等の紹介となり、現地の生徒に大変喜んでもらえた。2回目の生徒間の交流では、あやとりや折り紙を一緒にしながら、お互いに楽しんだり、日本のアニメは人気が高いようで、特にその話題で盛り上がっていた。



Ⅱ. 各学部・研究科等の主な国際交流活動



【成 果】 短い期間ではあったが、日本とは違う環境・言葉や生活習慣に身を置くことで、全てが新鮮で、本校の生徒は次第に慣れてくると、異文化との違いを楽しむ余裕も生じて来ていたようだった。今回訪問した生徒のなかに中国語が得意な生徒がいたので、その様子に刺激を受けて、他の生徒達も次第に中国語で、時には英語で話して、現地の生徒達や北欧からの生徒達とのコミュニケーションにチャレンジできた。「百聞は一見にしかず。」のことわざどおり、本校の生徒達にとって、とても良い経験になった。ただ、限られた生徒しか実際の国際交流を体験できなかったことは残念ではあるが、11月の文化祭での発表を聞いて、実際に行ってみたいという生徒達も新たに増え、他文化等に興味を抱ききっかけになったように感じ取れ、身近な生徒達が訪問したことで、本校内での他の生徒達にとっては、国際交流や国際理解等に、より親近感を抱けている様子でもあった。本校の教員も、他国の教育制度、学校・学年・クラスの運営、教育方針、課外活動の指導や生徒指導等について、随時、ごく自然に、現地の教員達と意見・情報交換等ができ、共通の課題に苦笑いしたり、お互いに新たな観点を持てるようになったりして、本校の生徒と教員にとって、とても意義深い天津市实验中学訪問と相互交流となった。また、ユネスコスクールの認定を受けている本校の取り組みのひとつである、ESD教育の観点からも、北欧からの生徒達も同時期に实验中学を訪問していたため、これまでも増して、直接、多様な文化や国際理解について学べる貴重な機会となった。最後に、12月9日に、本校の教員が、自身の青年海外協力隊での経験を基に、1年生を対象に国際理解教育の授業を行い、生徒達はキルギスについて学習した。キルギスの生活や文化、学校について、日本との違いやお互いの良いところを見つけながら、更に異文化の理解を深めることができた。今年度としては、天津市实验中学訪問が大きな国際交流事業となったが、本校における国際理解教育も多様に行え、本校の生徒達の国際理解に関する涵養に結び付いた。



国際交流センターの活動

1. 国際教育活動の概略

国際交流センターの2015年度の国際教育プログラムは、①日本語・日本文化教育コース、②英語による国際教育コース、③外国語による国際キャリアアップコース、の3コースで構成されている。日本語教育コースは、全学の留学生向けに日本語および日本文化に関する教育を提供するものである。英語による国際教育コースは、英語によるコミュニケーション能力を高めるとともに、日本人学生と留学生が同じクラスで学ぶことで互いに異文化理解を深めることを目的としている。また外国語による国際キャリアアップコースは、英語の語学研修をはじめとする海外短期研修の機会を提供するものである。

2. 日本語・日本文化教育

(1) 日本語研修（初級）集中コース

【初級集中コース】

日本語力の速成を希望する、初級レベルの留学生のために設けられたコースである。研修期間は16週間であり、未習者及び既習時間が100時間未満の学生のためのクラスである。各学部の指導教員の承諾のもとに、日本語クラスへの出席を優先させる等、一定の条件が設けられている。



2015年度前期（第36期）は、13名の留学生が受講した。内訳は、日本語研修生が5名（タイ3名、インド1名、ロシア1名、中国1名）、特別聴講学生5名（マレーシア4名、フランス1名）、特別研究学生3名（スペイン1名、タイ1名、エジプト1名）である。

2015年度後期（第37期）は17名の留学生が受講した。内訳は、日本語研修生が7名（中国2名、フィリピン1名、ギニア1名、ドイツ1名、ベトナム1名、セルビア1名）、特別聴講学生2名（フランス）、大学院生3名（フィジー1名、タイ1名、ベトナム1名）、研究生5名（アフガニスタン2名、ガボン1名、ミャンマー1名、エジプト1名）である。

このコースの主教材には、『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』（スリーエーネットワーク）が使用されている。副教材として、同テキストのシリーズとして発行されている『翻訳・文法解説（各国語版）』、『書いて覚える文型練習帳』、『導入・練習イラスト集』、付属CD・テープ、聴解教材『聴解タスク25Ⅰ』、テープ及びビデオ、『標準問題集Ⅰ』、等を活用した。加えて、新日本語の基礎シリーズ（スリーエーネットワーク）の『クラス活動集101』『続・クラス活動集131』や、『文法リスニング99』（凡人社）なども併用した。このコース終了後は各学部で専門の指導を受けることが期待されているため、日本語の基礎力を短期間で身につける必要がある。そこで、文法の積み上げによる基礎力の構築に加えて、特に会話能力と聴解能力の向上を目指し指導を進めた。近年、初級集中終了後の国際交流センター日本語レベル判定試験において、中級Ⅰレベルに配属される学生も多くなってきている。

「総合日本語」では、文法の復習や既習の学習項目を使った4技能の応用練習を中心に進められている。コースの修了時には「日本語研修（初級）集中コースの作文集」が発行され、日本語力の上達度が窺える。

(2) 一般日本語教育コース

三重大学に在学するすべての留学生が、そのニーズと日本語能力に応じて受講することができる。初級基礎Ⅰ、初級基礎Ⅱ、中級Ⅰ、中級Ⅱ、上級の5コースがある。各コースは2012年度より16週間となった。受講希望者は日本語レベル判定試験を受け、その結果に基づいて履修登録を行う。

中級Ⅰ、中級Ⅱ、上級のうち9科目は、本学共通教育の「日本語」「日本事情」の単位認定科目であり、学部正規留学生はこれらを履修して単位認定を受けることができる。

近年の傾向として、本学協定校の短期交換留学生の増加により、受講者数が多くなってきているため、特に中級Ⅰコースや選択科目の充実を図っている。2010年度から履修科目名が同じでも前期A、後期Bとすることで、帰国後に多くの科目が単位認定できるようにしている。



<初級基礎Ⅰ、Ⅱコース>

初級基礎Ⅰ、Ⅱコースは、大学での勉学や研究においてそれほど高いレベルの日本語力を必要としない留学生のための日本語コースである。両コースとも週に2コマであり、「市民開放授業科目」として市民に開放している授業でもある。

主教材は、初級基礎Ⅰでは『みんなの日本語 初級Ⅰ本冊』（スリーエーネットワーク）、初級基礎Ⅱでは『みんなの日本語 初級Ⅱ本冊』（同上）である。その他、関連副教材や自主作成教材も適宜活用している。初級基礎コースは、複数の選択科目と一緒に取る学生が多い。

<中級Ⅰコース>

本コースの目標は、大学で授業を受けるために必要な読解力及び聴解力、文章表現力の育成を目指すことである。初級レベルの基礎的な文法理解力、語彙力、会話力、読解力を土台に、より高度なコミュニケーション能力の育成と専門分野における研究に必要な日本語の文法力、語彙力、表現力を向上させるように取り組んでいる。

対象者は、初級集中コースや初級基礎Ⅱコースなど、日本語初級レベルを修了した日本語能力を有する者である。必修科目として「文法・読解」、「読解・作文」、「会話」、「聴解」がある。このうち「文法・読解」、「読解・作文」は、2010年度より「三重大学市民開放科目」として市民に開放されている。

<中級Ⅱコース>

中級Ⅰのコースを修了した者、または同等の日本語能力を有する者を対象とするコースである。

全3科目（「文法・読解」、「読解・作文」、「聴解・会話」）は、共通教育の単位認定対象科目（半期1単位）となっている。大学で専門の授業を受けるための、より高度な文法力、読解力、聴解力、文章表現能力、コミュニケーション力等をつけている。

<上級コース>

中級Ⅱのコースを終了した者、または同等の日本語能力を有する者を対象とするコースである。上級コースに必修科目はなく、すべて選択科目となっている。

Ⅲ. 国際交流センターの活動

(3) 選択科目コース

この科目は、2002年度より個々の学生のニーズに応じて学習の機会を広げることを目的として設けられた。自分で足りないと感じるスキルを選択科目の中から選び履修する。

2014年度前期と後期の選択科目は次の4科目である。

「文字・語彙 1」初級基礎Ⅰ、Ⅱの漢字未習者を対象

「文字・語彙 2」初級基礎Ⅱ～中級Ⅱの学習者を対象

「中級へのステップアップクラス」主に中級Ⅰレベルの学習者を対象

「上級へのステップアップクラス」中級Ⅱの学生を対象

(4) 留学生受け入れプログラム

<国際交流センター所属の短期留学生コース>

2007年度9月より開設されている。このコースを受講できる者は、三重大と交流協定のある外国の大学からの推薦による外国人留学生であり、最長1年間、国際交流センターに所属し、主にセンターの日本語コースの授業を受講する。4月または10月の受入れとなる。2015年は、学生25名を受け入れた。

<日本語・日本文化研修留学生コース>

当コースは、大使館推薦もしくは大学推薦による国費研究留学生（日本語・日本文化研修留学生）、及び本学と交流協定を締結している海外の交流協定校からの推薦による私費留学生（特別聴講学生）のためのプログラムである。日本語・日本文化研修留学生の受入れは、旧留学生センター当時の2003年度から始められた。来日時点で外国の大学の学部在籍し、日本語・日本文化に関する分野を専攻している者を対象とする。1年間の研修修了後には、母国の所属大学へ復学する。このコースでは、日本語能力を高めながら、日本文化と自国・他国の文化の比較を通して、文化の個性と普遍性についての認識を高めることを目指している。

研修期間の前半6か月間は、基本的に日本語教育コースで日本語や異文化理解・適応の授業を受けて、日本語能力や異文化理解力を向上させる。後半の6か月間は、さらにそれらの学習を続けながら各自の研究テーマを深め発展させるために、学部で開講されている専門科目を受講し、研究レポートの作成に向けて指導教員より指導を受ける。

2015年度前期（4月）には、中級Ⅱや上級コースへ進級し、上級レベルの日本語科目を履修した。加えて、教養教育機構・人文学部の協力を得て、研修生各々の専門や関心に応じて、研究テーマに関連のある専門科目を聴講した。また、上記の授業とは別に、それぞれ指導教員の指導の下、研究計画を立てて研究を進め、下記の2回の口頭発表を行った。

* 研究成果中間発表会 2015年5月23日

* 研究成果発表会 2015年8月6日



研究成果は、各々「研究レポート」としてまとめ、『日本語・日本文化研修留学生 研究レポート集Ⅻ』として国際交流センターより発行した（2015年9月30日）。

2015年10月には、2015年度生として5名の日本語・日本文化研修留学生を受け入れた。内訳は、大学推薦による国費研究留学生4名、大使館推薦による国費研究留学生1名である。日本語レベル判定試験の結果、1名が上級コース、4名が中級Ⅱコースにレベル判定され、それぞれのコースの日本語及び日本事情科目を履修した。

(5) コンピューター室を利用した教育指導

一般日本語教育コースでは、初級集中A、中級Ⅰ、中級Ⅱ、上級のクラスごとに、コンピューター室を利用して作文やレポートなどの文書の作成の指導が行われている。英語による国際教育科目「三重の社会と文化」、上級の「読解・作文」では、パワーポイントのソフトを使ったプレゼンテーションの指導も行われている。また、日本語・日本文化研修プログラムに参加している学生のレポートの中間発表や最終発表の際にも、このコンピューター室が利用されている。

2012年4月から筑波大学開発のJ-catというコンピューターによる日本語レベル判定試験を実施して日本語のクラス分けを行っている。

(6) 日本語レベル判定試験とオリエンテーション

国際交流センターにおいて開講されている日本語・日本事情の授業科目を受講するためには、まず日本語レベル判定試験を受験することになっている。学期ごとに、日本語専任教員が実施・採点を分担し、日本語のレベル判定を行っている。試験の実施日については、後期の場合、9月末の授業開始前に第1回目を実施し、10月に入り日本語・日本文化研修留学生の来日に合わせた日程で、新渡日の学生対象に第2回目の日本語レベル判定試験を行っている。さらに、履修申告締切日前に、諸事情により受験できなかった学生のために追試も行っている。

国際交流センターの授業を受けたい学生は、原則として毎回前期と後期の日本語レベル判定試験を受けなければならない。また、日本語能力試験1級合格者は、そのコピーを提出することで、日本語レベル判定試験を受けなくても、国際交流センターの日本語の授業を受けることができる。



2015年度前期は4月4日、6日、7日に、後期は10月2、5、6日に日本語レベル判定試験が行われた。日本語レベル判定試験の判定結果ならびに各コース別受講登録者数は、表1、表3に示す通りである。なお、前期・後期ともに、実際のクラスの人数には、前の学期の進級者が加わる（表2、表4）。近年交換留学生が増えるにしたがって、日本語レベル判定試験を受ける留学生も増えている。

Ⅲ. 国際交流センターの活動

2015年度前期

表1 日本語レベル判定の結果

コース名	判定学生数
初級集中クラス	6名
初級基礎Ⅰ	3名
初級基礎Ⅱ	15名
中級Ⅰ	16名
中級Ⅱ	16名
上級（JLPT1級合格者含む）	31名
計	87名

表2 コース別受講登録者数

コース名	受講登録者数
初級集中クラス	8名
初級基礎Ⅰ	7名
初級基礎Ⅱ	20名
中級Ⅰ	16名
中級Ⅱ	28名
上級	39名
計	118名

2015年度後期

表3 日本語レベル判定の結果

コース名	判定学生数
初級集中クラス	15名
初級基礎Ⅰ	19名
初級基礎Ⅱ	12名
中級Ⅰ	15名
中級Ⅱ	28名
上級（JLPT1級合格者含む）	22名
計	111名

表4 コース別受講登録者数

コース名	受講登録者数
初級集中クラス	12名
初級基礎Ⅰ	18名
初級基礎Ⅱ	17名
中級Ⅰ	24名
中級Ⅱ	29名
上級	36名
計	136名

(7) 市民開放授業

三重大学国際交流センターでは、三重大学市民開放授業科目として2008年度前期以降、初級基礎Ⅰクラス（＝「入門日本語」）を提供していたが、2010年度より中級Ⅰコースから文法・読解1A、文法・読解2Bを加え、1年で合計4科目を本学の市民開放授業に提供することとなった。2015年度は、前期は初級基礎Ⅱコース「生活日本語3A」に1名、中級Ⅰコース「文法・読解A」に1名、後期は中級Ⅱコース「文法・読解B」に1名の市民による申し込みがあった。市民の方が本学の留学生とともに学ぶよい機会となっている。

3. 英語による国際教育科目

このコースは英語でコミュニケーションする能力を磨くために作られた。日本人学生と留学生が同じクラスで学ぶことで、互いに異文化理解を深めるきっかけとなっている。

三重大大学の学生であれば国籍を問わず誰でも受講することができる科目であり、Tri-U大学国際ジョイントセミナー&シンポジウムや国際インターンシップに参加するための準備コースでもある。また海外の大学への留学を希望する日本人学生にも受講を推奨している。学期開始時に、学部正規生（大学院生を除く）は共通教育で、それ以外の学生は国際交流チームで履修登録をする。

2015年度に実施された国際教育科目は以下のとおり。

2015年度 統合教育科目内「国際教育科目」履修者数一覧

授 業 科 目 名	教 員 名	区 分	受講人数
異文化理解A	山根裕子（非常勤講師）	前期	5
異文化理解B	山根裕子（非常勤講師）	後期	7
世界遺産と私たちA	Brian J. Mahoney（非常勤講師）	前期	15
世界遺産と私たちB	Brian J. Mahoney（非常勤講師）	後期	15
英語論文作成演習A	Floyd McDaniel II（非常勤講師）	前期	7
英語論文作成演習B	Floyd McDaniel II（非常勤講師）	後期	9
環境問題と地球A	Brian J. Mahoney（非常勤講師）	前期	19
環境問題と地球B	Brian J. Mahoney（非常勤講師）	後期	15
国際協力入門	長縄真吾（国際交流センター特任教員）他	前期	117
メディアと日本文化A（日本語）	栗田聡子（国際交流センター教員）	前期	81
メディアと日本文化B（日本語）	栗田聡子（国際交流センター教員）	後期	62
メディアと日本文化A（英語）	栗田聡子（国際交流センター教員）	前期	31
メディアと日本文化B（英語）	栗田聡子（国際交流センター教員）	後期	38
三重の社会と文化A	花見楨子（非常勤講師）	前期	15
三重の社会と文化B	花見楨子（非常勤講師）	後期	23
海外英語研修A（豪州モナシュ大学）	長縄真吾（国際交流センター特任教員）	前期集中	14
海外英語研修B （ベトナムフィールドスタディ）	長縄真吾（国際交流センター特任教員）	後期集中	10

4. 地域との国際交流活動

(1) 学生ホームステイプログラム（セカンドホーム）

国際交流センターでは、津市のボランティア団体と協力して、三重大学の留学生にホスト・ファミリーを紹介しています。2015年度は新渡日留学生を対象に前期、後期の二度募集を行ったところ、15名（前期）と17名（後期）の学生が参加した。彼らの出身国はベトナム、タイ、インドネシア、中国、台湾、ドイツであった。参加者は、「セカンドホームに参加してホスト・ファミリーから日本を学ぶことができ、日本語と英語の両方を使う機会もあった。ホスト・ファミリーと一緒にゲームをおこなったり、夕食を共にするなどして、楽しい時間を過ごした。」との感想を述べていた。

(2) 多文化理解イベント「Hand in Hand!みえの地球市民2015」

2015年12月17日(日)、みえ市民活動ボランティアセンター（みえNPOネットワークセンター）主催により、「集まれ！グローバルレンジャー～世界を知る！学ぶ！楽しむ！」が、みえ県民交流センター（アスト津3F）にて開催された。小学生を中心に、来場者は大人を含めて500人を超え、昨年度に比べ約200人増の盛況であった。



このイベントは、国籍や民族が異なる人々がお互いの文化を認め合い、尊重する多文化共生社会づくり、また国際貢献・交流活動の発展を目的としている。今年度は、「いたずら好きの宇宙人から、世界の伝統、文化、遊びを守ろう！」というストーリーをベースに、子どもたちに「グローバルレンジャー」に変身してもらい、ワークショップ、展示ブース等に参加して世界の文化や出来事についてゲーム感覚で勉強してもらった。

三重大学の学生たちもブースやセッションを担当し、世界の挨拶や世界遺産を紹介したり、ベトナムのストリートチルドレンについてタブレットを用いて説明するなどして貢献した。

(3) 留学生による日本の学校での多文化理解授業

2015年12月、ローワイ・ディーンさん（イギリス・ドイツ/国際交流センター）は、県立上野高校を訪問し、日本の高校生と一緒に授業を体験した。担任の先生と学生に挨拶をし、日本史・体育・古文の授業に参加した。高校生たちとお昼のお弁当と一緒に食べ、会話を楽しみ、また部活にも参加させてもらい、日本の高校へ通学するという夢を叶えることが出来た。日本史では江戸幕府の職制について詳しく学んだ。体育は卓球を高校生たちと楽しく行った。また古文では「方丈記」からの抜粋について読解を深めた。

(4) サークル“てらこや”の活動

国際交流センターでは、2003年度より全学部向けに本学の日本人学生が留学生にボランティアで日本語をサポートするサークル活動を支援している。この日本語学習のサポートは、日本人学生1名と留学生1名がペアになって、留学生のニーズにより、会話、問題集、レポート、論文のアドバイス、申請書の添削など様々である。学生間の情報交換を兼ね、週1回昼休みにランチ・ミーティングを行うほか、親睦・交流のため年数回の交流パーティ、夕食会、その他研修旅行やミニ音楽会などのイベントを行ってきた。また、地域に住む外国籍児童・生徒のために、ブラジル人学校や小学校を訪問して日本語支援をしたり、県立高校で教科支援を行ったりした実績もある。日本人学生と留学生が日頃楽しく交流できるよい機会となっている。

2015年度もランチ・ミーティングをはじめ、年2回の歓迎パーティや有志によるミニ旅行、和菓子店への訪問を通して、親睦・交流を深めることができた。



学生総合支援センターによる留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援業務

1. 留学生支援

(1) 2015年度留学生入学者数

	国費留学生	私費留学生 (内、交換留学生)	計	対前年度比
4月入学	8名	118名(67名)	126名	10名増
10月入学	23名	93名(58名)	116名	7名増
計	31名	211名(125名)	242名	17名増

(2) 在留資格認定証明書代理申請

非正規留学生の在留資格認定証明書交付申請を留学生支援室が代理で行い、2015年度は延べ139名の留学ビザ取得を手助けした。

(3) 留学生ガイダンスの実施

新渡日の留学生を中心に4月および10月に実施した。

留学生ガイドブック（日英・日中版）を用い、三重大学での学生生活を送るための基本的なルール及び資格外活動、国民健康保険の加入等の日本での生活ルールに重点をおき、英語による通訳を交えて実施した。

また、4月、10月には津市国際交流協会を通じて津市民の方々より寄贈された日用品を配布した。



留学生ガイダンスの様子



津市国際交流協会より日用品の寄贈

(4) 留学生の生活サポート

新渡日の留学生の出迎え、住民登録、国民健康保険の加入等の市役所における各種手続きについて支援を行った。

(5) チューター制度

チューター学生が新渡日の留学生に生活・日本語学習補助等を行う制度のことで、2015年度は延べ268名の留学生に対して支援を行った。

(6) オフィスアワー制度

国際交流センター教員が留学生の相談を受ける制度のことで、留学生の相談を受け付けた。

(7) 留学生住宅総合補償（機関保証制度）

留学生が民間アパート等を借りる際に大学が機関保証人となる制度のことで、2015年度は34名の加入があった。

(8) 私費外国人留学生優遇制度

本学独自の取組みとして、海外の協定校から本学の修士課程・博士課程に入学する優秀な留学生に対して入学金及び授業料の全学免除を実施。2015年度は、30名の留学生に対して支援を行った。

(9) 奨学金に関する支援

(三重大学独自の奨学金)

① 三重大学国際交流特別奨学生制度

海外協定大学から短期留学する外国人留学生の奨学事業

協定大学からの交換留学生を対象として、月額2万円の奨学金を支給しており、2015年度は、23名の留学生を採用した。

② 伊藤達雄三重大学名誉教授外国人留学生助成金

本学名誉教授からの寄附金を基に新渡日の優秀な留学生に対し奨学金を支給しており、2015年度は、2名の留学生を支援した。

③ 梅林正直三重大学名誉教授タイ人留学生助成金

本学名誉教授からの寄附金を基に新渡日の優秀なタイ人留学生に対し奨学金を支給しており、2015年度については、該当者がいなかった。

Ⅳ. 学生総合支援センターによる留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援業務

(各種民間財団等の奨学金)

各種奨学財団等からの募集に対し、留学生委員他の協力の下、選考・申請手続きを行っている。2015年度の支給実績は以下のとおり。

奨 学 金 名	支給人数 (人)
文部科学省外国人留学生学習奨励費	7
三重県私費外国人留学生奨学金	2
本田弁二郎留学生技術者育成奨学基金	5
ロータリー米山記念奨学会	3
佐藤陽国際奨学財団	1
橋谷奨学会	2
大塚敏美育英奨学財団	1

(10) 留学生への就職支援

キャリアサポートセンターウェブサイト (<http://www.mie-u.ac.jp/employment/students/post-2.html>) において、留学生対象の求人情報及び説明会の情報を随時、発信した。

(11) 留学生会の実施

「留学生会」は、①中国、②韓国、③バングラデシュ、④マレーシア、⑤タイ、⑥その他アジア地域の国々、⑦アジア地域以外の全地域の国々（4大陸）の代表者からなる会のことで、留学生支援室との定期的な意見交換を通じ、留学生の受入れ環境や支援体制の改善を行っている。

(12) 三重地域留学生交流推進会議の開催

三重県内における留学生の円滑な受入の促進と交流活動の推進を図るとともに、地域住民の国際理解の増進に寄与するため発足された会議のことで、7月11日（金）に総会を、2月5日（金）に運営委員会を開催した。

なお、総会の際には文部科学省高等教育局学生・留学生課留学生交流室政策調査係長 柴田鏡子氏を招き、留学生政策の動向及び留学生交流の推進に係る施策について説明があった。

(13) 留学生メールマガジンの配信

登録されたメールアドレス（携帯電話を含む）に毎月1回、大学からの重要な連絡事項を日本語と英語で配信している。

(14) 留学生研修旅行

留学生支援室では年2回、留学生に日本文化を体験してもらうために参加無料の研修旅行を企画しており、2015年度については7月に京都市、11月には伊勢市、鳥羽市を訪問した。

<7月 京都市>

留学生79名は教職員6名の引率のもと京都清水寺および太秦映画村を訪問し、日本の伝統的な建造物を見て回り、日本文化体験として、うちわの絵付けを行った。日本文化を肌で感じる事ができる貴重な一日となった。



清水寺にて



うちわの絵付け体験

<11月 伊勢市、鳥羽市>

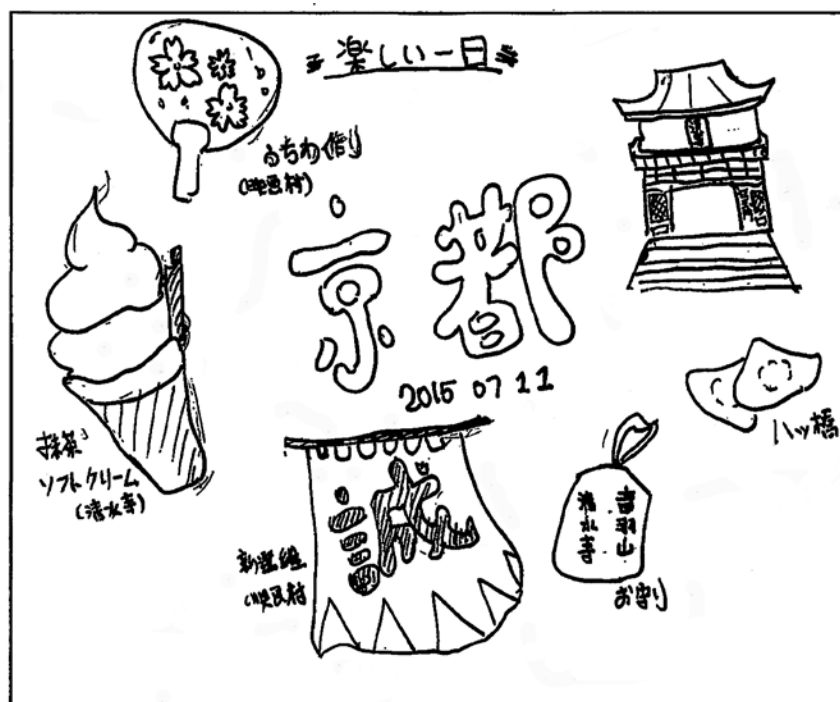
留学生86名は教職員5名の引率のもと伊勢神宮、鳥羽水族館を訪問した。伊勢神宮では、自然の美しさ及び荘厳さに感動し、また、日本建築の美に驚嘆していた。朝熊山展望台にも立ち寄ったが、空と海と島々の自然の美しさに心を奪われた様子であった。鳥羽水族館では、水族館を訪れるのが初めてという留学生もあり、それぞれに有意義な一日となった。



伊勢神宮にて



昼食の風景



研修旅行参加者によるレポート

(15) 日本文化体験

① 生け花体験

池坊流師範の小菅佳年子先生（元本学図書館職員）によるボランティア活動として、2000年より、毎月2回、水曜日の昼休みに本学職員と共に留学生が指導を受けている。

② お茶会体験

武者小路千家師範の新田貴士先生（現国際交流会館主事）により毎月第3水曜日に留学生会館和室にてお茶会体験を開催している。日本を代表する文化の一つである「茶道」を体験することができると、留学生に好評である。

(参考)

ベトナム国籍の交換留学生による留学報告書

What/how you did at Mie University? (Write what you learned by studying at Mie University in detail.)

留学を終えて・・・(留学の成果等について詳細に記入してください。)

私は家族・友達・ベトナムの生活に一応離れて、新しい世界に入りました。そろそろ一年間ぐらい経ちました。日本に来て、三重県に来て、特に三重大学で勉強できて、本当に良かったです。

三重大学で色々なこと勉強していました。日本語だけでなく、日本の文化も日系企業のマナーも勉強していました。中国語までも勉強できました。しかし、本に書いてあるレッスンよりも、実際に体験したことの方が本当に貴重な教訓だと思います。

日本に来たのははじめてです。一人暮らしもはじめてです。すごく心配でした。日本人の皆さんが私の言葉を通じるかな？ 私が日本の料理食べられるかな？ ベトナムでは右側通行ですが、日本では逆に左側通行です。どうかね。慣れるようになるかなあ...色々な心配なことが頭の中に浮かんでいました。しかし、千里の道も一歩からですね。なんとか全部の心配なことを乗り越えて、素敵な留学生活できました。

留学している間、東京・京都・大阪・和歌山・神戸・長野・奈良など色々なところに行きました。三重県の有名なところも行きました。伊勢神宮・鳥羽・桑名・おわせに行きました。その中には、特に探検者として桑名に行ったのは本当に貴重な体験だと思います。私たちは桑名の歴史

が紹介されて、海苔を作るのを体験できました。また長島スパーランドで楽し時間を過ごしました。

三重大大学の色々なパーティーに参加しました。そこで色々な人に会えて、色々な友達できました。うれしかったです。

私にとって今年は体験の年だと思います。生まれてから、はじめてさくも見ました。はじめて雪を見ました。はじめて日本のお盆祭りを体験しました。その日に浴衣を着て、三重の先生と友達と一緒に神社に行って盆踊り踊ってみました。本当にいい思い出になりました。また、はじめてスキー体験しました。はじめて雪だから、怖かったです。何回も何回も転んで、人にぶつかりました。痛かったですが、雪とスキーできてすごくうれしかったです。

私は日本に来る前、刺身と味噌汁食べられませんでした。今全部の日本の料理が食べれるようになりました。それに、日本の料理に興味を持って、自分で調らべて、勉強しました。今はだし巻きとかちゃんこおしとか色々な料理し方が分かって、できました。帰国した後、日本のレストラン開店しようかなと思います。(^^)

留学する時間は勉強する時間・あそぶ時間・体験する時間だと思います。一年間たって本当に成長しました。考え方も生き方も成長しました。それから、困ることとか大変なこととかあるはずだと思いますが、自信をもて前に向かっていきます。

留学できて、本当にうれしいです。色々なことを身につけて、良かったです。三重大大学の先生、本当にありがとうございました。一年間大変お世話になりました。雪と留学した時間！留学の思い出を人生の一生絶対に忘れません。

2. 海外留学支援

(1) 交換留学生の授業料免除制度

2014年度から「学業成績等優秀学生及び交換留学生の授業料免除制度」を制定し、本学から協定校に交換留学生として派遣される学生について、協定に基づき、派遣先の大学で授業料を納める必要がある場合、本学の授業料を免除することとしている。

(2) 交換留学の募集及び説明会

2014年度から、交換留学生の募集を従来の4月、10月の加え、新たに6月及び1月募集を追加し、年4回の募集とした。

また、2016年1月20日（水）に全学向けの交換留学説明会を行い、27名の学生が参加した。留学生支援室の職員から、交換留学の概要について説明があった他、交換留学から帰国した学生の体験談発表及び相談会も実施され、留学を希望する学生の相談を受付けた。先輩の実体験に基づく発表を聞いた学生は、留学の実現に向けてより思いを強くしたようであった。



交換留学経験者の体験談発表



相談会の様子

(3) 官民協働留学支援制度「～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」第2期、第3期採択

2015年度前期（第2期）に1名、平成27年度後期（第3期）には基本4コースにて1名、三重県地域人材コースにおいて4名が採択された。



赤池誠章文部科学大臣政務官の開会の挨拶



後藤学生総合支援センター長と第3期派遣就学生（壮行会にて）

IV. 学生総合支援センターによる留学生支援・海外留学支援・地域国際化支援業務

官民協働海外留学支援制度～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～採択状況

2015年度前期（第2期）

No.	申請コース	学部/研究科	課程	学年	受入れ機関	留学期間
1	自然科学系、 複合・融合系人材コース	工学研究科	博士	1年	ブルガリア科学アカデミー (ブルガリア)	2015年7月28日 ～ 2016年1月2日

※在籍年次及び学籍番号は、2015年4月現在のもの

2015年度後期（第3期）

<基本4コース>

No.	申請コース	学部/研究科	課程	学年	受入れ機関	留学期間
1	自然科学系、 複合・融合系人材コース	工学研究科	修士	1年	パドヴァ大学/ サン・カミッロ病院（イタリア）	2015年10月13日 ～ 2016年2月15日

<地域人材コース>

No.	申請コース	学部/研究科	課程	学年	受入れ機関	留学期間
1	地域人材コース	工学研究科	博士	1年	ウィスコンシン大学ミルウォー キー校/ヨーク大学 (米国/英国)	2015年10月3日 ～ 2016年1月31日
2	地域人材コース	工学研究科	修士	1年	ミシガン大学（米国）	2015年9月1日 ～ 2016年2月15日
3	地域人材コース	工学研究科	修士	1年	ミシガン大学（米国）	2015年9月1日 ～ 2016年2月15日
4	地域人材コース	工学研究科	修士	1年	ミシガン大学（米国）	2015年9月1日 ～ 2016年2月15日

※在籍年次及び学籍番号は、2015年4月現在のもの

(4) 官民協働留学支援制度「～トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム～」第5期募集説明会

2016年1月20日（水）に本学にて、文部科学省・独立行政法人日本学生支援機構主催のトビタテ！留学JAPAN第5期募集説明会（教員向け・学生向け）が開催され、文部科学省官民協働海外留学創出プロジェクトの大村貴康氏から、プログラムの概要及び応募方法等について説明があった。また、トビタテ！留学JAPAN三重県留学生支援協議会事務局の小磯賢智氏から、三重県地域人材コースの概要及び応募スケジュール等について説明があった。



学生向け説明会

(5) 奨学金に関する支援

① 三重大学国際交流特別奨学生制度

- ・外国の大学へ留学する学生への奨学事業

協定大学への交換留学生を対象として、往復旅費の実費額（上限15万円）を支給しており（9月からは15万円支給に制度を改正）、2015年度は、22名の学生を支援した。

- ・国際交流事業へ参加する学生への奨学事業

学生が外国で行われる国際交流事業へ参加する場合、10万円を支給しており、2015年度は、13名の学生を支援した。

その他、2015年度は、日本学生支援機構が実施する海外留学支援制度のプログラムに参加する学生で、同機構よりの奨学金が不支給となる1名の学生に対して支援を行った。

② 海外留学支援制度

2015年度は、日本学生支援機構の海外留学支援制度に次表のとおり6プログラムが採択された。

2015年度JASSO協定派遣プログラム

協定派遣

No.	プログラム名	対象学部・研究科・学科	担当教員	プログラム実施期間	派遣 日数	総派遣 人数	採択 人数	奨学金 支給人数
				開始月 ～ 終了月				
1	オークランド大学教育学部における教育研修の実施	教育学部・教育学研究科	後藤 太郎	2015.9.1 ～ 2015.9.9	9日	18	11	11
2	新しい時代のグローバルヘルスを理解する医療人の養成	医学科・医学部	堀 浩樹	2015.4.6 ～ 2015.7.3	26日	51	31	31
3	フィールドサイエンス実習（インドネシア）	全学科・生物資源科学部・生物資源学研究科	江原 宏 塚田 森生	2015.8.21 ～ 2015.8.28	8日	11	7	3
4	人文系アカデミックスキルを鍛えるキャリア英語実践プログラム2015	全学科・人文学部・人文社会科学研究科	吉田 悦子	2015.8.22 ～ 2015.9.8	18日	12	7	4
5	海外研究大学リサーチ・インターンシップ	医学科・医学部	島岡 要	2015.8.3 ～ 2015.8.19	17日	12	7	1
6	三重大学-マレーシアタチ大学間の学生双方向交流の継続・深化（派遣）	工学研究科	金子 聡	2015.9.1 ～ 2015.9.24	24日	12	7	3

3. 地域国際化支援

留学生の派遣：三重県内の教育機関等からの依頼を受けて、母国語通訳に1名の留学生を派遣した。その他、国際交流行事等に延べ50名の留学生を派遣し、児童・学生と交流を図り、地域の国際化に寄与した。

開 催 日	依 頼 者	内容・イベント名	留学生 派遣人数
10～11月	三重県立津商業高等学校	韓国語通訳ボランティア	1名
6月17日（水）12月9日（水）	桑名市教育委員会	小学生国際教室	2名
7月25日（土）	津ユネスコ協会	子どもユネスコの集い	3名
12月9日（水）	津市立辰水小学校	留学生との国際交流学習	1名
12月16日（水）	三重大学附属幼稚園	サンタさんとの出会い	1名
12月17日（木）	エスコラビオス学園海星高等学校	海星グローバル交流会	15名
12月19日（土）	(株)創建（明和町）	明和町モニターツアー	6名
1月30日（土）	鈴鹿市立椿小学校	椿ワールド	7名
3月29日（火）	高田学苑 高田中学校	中学3年生春季セミナー	15名



1. 学術交流協定一覧

(1) 大学間協定 (24 か国・地域、66 大学・機関)

2016年3月31日現在

	大学名	国名	協定締結日	
			一般協定	学生交流の実施に関する覚書
1	江蘇大学	中国	1986/01/15	1995/09/29
2	チェンマイ大学	タイ	1989/08/22	1996/01/31
3	タスマニア大学	オーストラリア	1996/04/01	1996/04/01
4	バレンシア州立工芸大学	スペイン	1997/07/04	2003/01/10
5	廣西大学	中国	1999/02/22 (1995/04/21 : 生)	1999/02/22 (1995/12/19 : 生)
6	カセサート大学	タイ	1999/12/23	2000/07/24
7	コンケン大学	タイ	2000/7/17 (1994/08/25 : 医)	2000/07/17
8	エアランゲン・ ニュルンベルク大学	ドイツ	2001/03/16	2001/03/16
9	東国大学校	韓国	2002/12/16	2004/03/24
10	梨花女子大学校	韓国	2002/12/17	2004/03/23
11	西安理工大学	中国	2003/08/28	2003/08/28
12	スラナリー工科大学	タイ	2003/10/18 (2000/9/8 : 生)	2003/10/18
13	バングラデシュ農業大学	バングラデシュ	2004/03/15	2004/03/15
14	天津師範大学	中国	2004/11/20 (2003/03/15 : 教)	2004/11/20 (2003/03/15 : 教)
15	ノースカロライナ大学 ウilmington校	米国	2005/12/21	2005/12/21
16	江南大学	中国	2006/02/13 (1998/03/30 : 生)	2006/02/13 (1998/03/30 : 生)
17	ボゴール農科大学	インドネシア	2006/9/24 (2001/9/24 : 生)	2006/9/24 (2001/9/24 : 生)
18	アジア工科大学院	タイ	2007/03/20	2009/09/24
19	スリウィジャヤ大学	インドネシア	2007/11/06	2007/11/06
20	ビサヤ州立大学	フィリピン	2007/12/18 (2002/12/13 : 生)	2007/12/18 (2002/12/13 : 生)
21	タマサート大学	タイ	2008/01/15 (2004/2/27 : 生)	2008/01/15 (2004/2/27 : 生)
22	南京工業大学	中国	2008/07/07	2008/07/07
23	ハイデルベルク大学	ドイツ	—	2008/12/12
24	河南師範大学	中国	2008/12/15 (2005/10/26 : 教)	2008/12/15 (2005/10/26 : 教)
25	世宗大学校	韓国	2009/02/10	2009/02/10
26	メジョー大学	タイ	2009/03/31	2009/03/31
27	外国貿易大学	ベトナム	2009/05/26	2009/05/26
28	ホーチミン市師範大学	ベトナム	2009/07/28	2009/07/28
29	上海海洋大学	中国	2009/09/24 (1995/10/16 : 生)	2009/09/24 (1996/10/24 : 生)
30	瀋陽薬科大学	中国	2010/02/25	2010/02/25
31	タシケント国立立法科大学	ウズベキスタン	2010/03/22	2010/03/22
32	内蒙古工業大学	中国	2010/03/31 (2000/3/8 : 工)	2010/03/31 (2000/11/13 : 工)
33	ハルオレオ大学	インドネシア	2010/07/23	2010/07/23
34	ハワイパシフィック大学	米国	2010/09/13	—
35	シャルジャ大学	アラブ首長国連邦	2010/10/4 (2008/12/24 : 医)	2010/10/4 (2008/12/24 : 医)

V. 資料

	大学名	国名	協定締結日	
			一般協定	学生交流の実施に関する覚書
36	モンゴル国立大学	モンゴル	2010/10/15	2010/10/15
37	ハバロフスク 国立経済法律アカデミー	ロシア	2010/10/15	2010/10/15
38	延辺大学	中国	2010/10/15	2010/10/15
39	サボア大学	フランス	2010/11/04	2010/11/04
40	ネブラスカ大学 リンカーン校	米国	2011/01/11	—
41	ボーフム大学	ドイツ	2011/03/28	2011/03/28
42	ジャウメプリメル大学	スペイン	2011/04/14	2011/04/14
43	カーディフ大学	英国	2011/07/15	2011/07/15
44	安徽農業大学	中国	2011/10/25 (2008/10/21 : 生)	2011/10/25 (2008/10/21 : 生)
45	フラウンホーファー 研究機構	ドイツ	2012/01/09	—
46	ライプツヒ大学	ドイツ	—	2012/02/07
47	パジャジャラン大学	インドネシア	2012/02/24	2012/02/24
48	タチ大学	マレーシア	2012/05/24 (2010/08/02 : 工)	2012/05/24
49	プトラマレーシア大学	マレーシア	2012/08/08 (2006/09/19 : 生)	2012/08/08
50	雲南大学	中国	2012/08/20	2012/12/25
51	北京外国語大学	中国	2012/09/21 (2012/03/23 : 人)	2012/09/17
52	CSEM社	スイス	2013/01/23	—
53	セントラル・ランカシャー 大学	英国	—	2013/04/19
54	国立高雄師範大学	台湾	2013/06/18	2013/06/24
55	国立ラ・モリーナ農業大学	ペルー	2013/08/23	2013/08/23
56	カジェタノ・エレディア大 学	ペルー	2014/02/11	2014/02/11
57	フィジー国立大学	フィジー	2014/05/05	2014/05/05
58	南太平洋大学	フィジー	2014/05/06	2014/05/06
59	中国社会科学院日本研究所	中国	2014/09/07	—
60	カントー大学	ベトナム	2014/09/12	2014/09/12
61	中山大学	台湾	2014/10/20	2014/10/20
62	ザンビア大学	ザンビア	2014/11/11 (2007/02/07 : 医)	2014/11/11 (2007/02/07 : 医)
63	金門大学	台湾	2015/06/23	2015/06/23
64	サンパウロ大学	ブラジル	2015/07/07 (2011/05/16 : 人)	2015/07/07
65	南台科技大学	台湾	2015/08/28 (2014/11/14 : イノベ)	2015/08/28
66	済州大学	韓国	2015/09/14	2015/09/14

注) 協定締結日のカッコは、部局間協定としての締結年月日

(2) 部局間協定 (23 か国・地域、45 大学・機関)

2016年3月31日現在

部局	大学名	国名	協定締結日	
			一般協定	学生交流の実施に関する覚書
教養教育機構	シェフィールド大学・英語教育センター	英国	2015/09/10	—
人文学部	シャルル・ド・ゴールリール第3大学	フランス	1989/11/01	2013/03/15
	リヨン政治学院 (リヨン第二大学)	フランス	2002/01/21	2002/01/21
	ルンド大学人文・神学学部	スウェーデン	—	2011/03/18
	南開大学日本研究院	中国	2010/01/22	2013/03/18
	サンパウロ大学哲学・文学・人間科学部	ブラジル	2011/05/16	—
教育学部	オークランド大学教育学部	ニュージーランド	2013/08/14	—
	北京理工大学外国語学院	中国	2015/11/16	—
大学院 医学系研究科・ 医学部	マーサー大学医学部	米国	1998/10/29 (発効: 1998/11/01)	—
	ウェイン州立大学医学部	米国	2002/03/18	—
	上海交通大学医学院	中国	2004/08/11	2009/12/01
	ロストック大学医学部	ドイツ	2004/10/29	—
	廣西医科大学	中国	2006/06/06	—
	ムヒンビリ健康科学大学医学部	タンザニア	2007/10/19	2007/10/19
	イエーテボリ大学健康科学部	スウェーデン	2009/01/14	2009/01/14
	ニューメキシコ大学医学部	米国	2009/06/24	—
	ガーナ大学医学部	ガーナ	2010/02/18	2010/02/18
	ベルジア大学医学部	イタリア	2010/02/22	2010/02/22
	蘭州大学第二臨床医学院	中国	2011/03/17	2011/03/17
	ラオス健康科学大学	ラオス	2011/09/26	2011/09/26
	アムリタ大学医学部	インド	2012/01/30	2012/01/30
	ヤンゴン第一医科大学	ミャンマー	2012/12/17	—
	フリンダース大学医学部	オーストラリア	2014/02/27	2014/02/27
	フライブルグ応用科学カトリック大学	ドイツ	2014/06/11	—
	ワシントン大学医学部	米国	2014/08/25	—
	マンダレー医科大学	ミャンマー	2014/11/05	—
	フィリピン大学マニラ校保健学部	フィリピン	2015/07/23	—
	ヤンゴン第二医科大学	ミャンマー	2015/10/22	—
大学院工学研究科・ 工学部	清華大学熱能工程系及び工程力学系	中国	1995/10/01	1995/11/01
	モンクット王ラカバン工科大学	タイ	2005/09/05	2005/09/05
	浙江大学理学院	中国	2009/03/28	2009/03/28
	パリ工芸大学	フランス	2009/08/31	2009/08/31
	ルマン先進素材・機械学高等学院	フランス	2010/07/26	2010/07/26
	財団法人グリーンランドクリニック 医用生体工学リサーチ研究所	米国	2011/04/22締結 2011/02/01発効	—
	国立アテネ工科大学	ギリシャ	2012/05/16	2012/05/16
	ティラナ工科大学	アルバニア	2012/09/13	2012/09/13
	パドヴァ大学マネジメント工学部・土木 環境建築工学部	イタリア	2014/02/17	—
	ベトナム科学技術院 (VAST) エネルギー科学研究所 (IES)	ベトナム	2014/09/30	2014/09/30
	ロイトリンゲン大学工学部	ドイツ	2015/03/05	—
	ホーチミン工科大学機械工学部・ 応用科学部・材料工学部	ベトナム	2015/04/20	—
大学院生 物資源学研究科・ 生物資源学部	釜慶国立大学校水産科学学部・環境海洋 学部	韓国	1995/09/22	2013/02/06
	ハッサン2世農獣医大学	モロッコ	2002/11/20	2002/11/20
	モンクット王トンプリ工科大学生物資源 学研究科	タイ	2009/10/20	2009/10/20
	温州大学生命環境科学学院	中国	2013/03/31	2013/03/31
	ゲント大学生物科学工学部	ベルギー	2015/03/09	2015/03/09
大学院地域イノベーション学研究科	真理大学財経学院	台湾	2014/10/21	2014/10/21

V. 資料

2. 三重大学生の海外派遣実績

プログラム名	交流大学等	国又は地域	派遣期間	派遣学生数
1. 協定校等への留学（1学期以上）（学生の所属）				
（1）1年以上				
協定校への留学(医学)	オークランド大学	ニュージーランド	2年	1
協定校への交換留学（人文）	国立高雄師範大学	台湾	1年	6
協定校への交換留学（人文）	ジャウメプリメル大学	スペイン	1年	1
協定校への交換留学（人文）	シャルルドゴールリール第3大学	フランス	1年	1
協定校への交換留学（人文）	ルンド大学	スウェーデン	1年	3
協定校への交換留学（人文）	ライプツヒ大学	ドイツ	1年	1
協定校への交換留学（人文）	ノースカロライナ大学	米国	1年	1
協定校への交換留学（人文）	セントラルランカシャー大学	英国	1年	1
協定校への交換留学（人文）	サンパウロ大学	ブラジル	1年	1
協定校への交換留学（人文）	ハイデルベルク大学	ドイツ	1年	1
協定校への留学(医学)	タスマニア大学	オーストラリア	1年	1
協定校への留学(生物)	ハイデルベルク大学	ドイツ	1年	1
1年以上 計				19
（2）6か月以上1年未満				
協定校への交換留学（人文）	ルンド大学	スウェーデン	11か月	1
協定校への交換留学（人文）	ハイデルベルク大学	ドイツ	11か月	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業(工学)	Technical University Munich	ドイツ	11か月	1
協定校への交換留学（人文）	ルンド大学	スウェーデン	10か月	1
協定校への交換留学（人文）	ボーフム大学	ドイツ	10か月	1
協定校への交換留学（人文）	カセサート大学	タイ	9か月	1
語学留学(人文)	—	メキシコ	8か月	1
留学(工学)	—	フランス	8か月弱	1
協定校への留学(工学)	クリーブランドクリニック	米国	7か月弱	2
6か月以上1年未満 計				10
（3）3か月以上6か月未満				
トビタテ・自然科学系・複合・融合系人材コース(工学)	Bulgarian Academy of Sciences	ブルガリア	5か月半	1
トビタテ・自然科学系・複合・融合系人材コース(工学)	バドヴァ大学	イタリア	4か月半	1
トビタテ・地域人材コース(工学)	ウィスコンシン大学ミルウォーキー校 / ヨーク大学	米国/ 英国	4か月	1
トビタテ・地域人材コース(工学)	ミシガン大学	米国	5か月半	3
国際インターンシップ・海外留学支援事業(工学)	バレンシア州立工芸大学	スペイン	5か月	1
3か月以上6か月未満 計				7
2. 短期海外研修（3か月未満） 学部別				
（1）国際交流センター				
Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム	江蘇大学 他	中国	6日	12
ベトナムフィールドスタディ	ホーチミン市師範大学他	ベトナム	13日	10
短期語学研修（英語）	モナシュ大学	オーストラリア	28日	14
短期語学研修（英語） *三大学連携プログラム	ノースカロライナ州立大学	米国	21日	1
短期語学研修（英語） *三大学連携プログラム	モナシュ大学	オーストラリア	28日	2
国際交流センター 計				39
（2）教養教育機構				
短期語学研修（英語）	シェフィールド大学	英国	22日	51
教養教育機構分 計				51
（3）人文学部				
語学留学(英語)	—	米国	2か月弱	1
ドイツ語文化研修	エアランゲン・ニュルンベルク大学	ドイツ	28日	3
短期語学研修（英語）	オックスフォード大学ハートフォードカレッジ	英国	18日	4
短期語学研修（中国語）	国立高雄師範大学	台湾	15日	18
ドイツフィールドワーク	ボーフム大学他	ドイツ	6日	11
人文学部分 計				37
（4）教育学部				
海外短期研修	天津師範大学	中国	13日	15
海外短期研修	オークランド大学	ニュージーランド	9日	12
教育学部分 計				27
（5）医学部・医学系研究科				
海外臨床実習	コンケン大学	タイ	4週間	3
海外臨床実習	ワシントン大学	米国	4週間	5
海外臨床実習	ムヒンビリ健康科学大学	タンザニア	4週間	5
海外臨床実習	ザンビア大学	ザンビア	4週間	3
海外臨床実習	上海交通大学	中国	4週間	2
海外臨床実習	シャルジャ大学	アラブ首長国連邦	4週間	6
海外臨床実習	ベルギア大学	イタリア	4週間	3
海外臨床実習	ラオス健康科学大学	ラオス	4週間	4
海外臨床実習	タマサート大学	タイ	4週間	8

プログラム名	交流大学等	国又は地域	派遣期間	派遣学生数
海外臨床実習	カーディフ大学	イギリス	4週間	3
海外臨床実習	アムリタ大学	インド	4週間	3
海外臨床実習	サンパウロ大学	ブラジル	4週間	3
海外臨床実習	フリンダース大学	オーストラリア	4週間	2
海外臨床実習	フィリピン大学マニラ校	フィリピン	4週間	1
海外臨床実習	フィジー国立大学	フィジー	4週間	5
(海外臨床実習 計 56名)				
早期海外体験実習	アーナンダ病院	インド	10日	3
早期海外体験実習	ワシントン大学	米国	6日	5
早期海外体験実習	コンケン大学(タイ)・ラオス健康科学大学(ラオス)	タイ・ラオス	8日	3
早期海外体験実習	レイテ大学	フィリピン	8日	2
早期海外体験実習	チェンマイ大学	タイ	8日	7
早期海外体験実習	フライブルクカトリック大学	ドイツ	9日	6
(早期海外体験実習 計 26名)				
リサーチインターンシップ	ハーバード大学	米国	21日	1
(リサーチインターンシップ(医学) 計 1名)				
医学部分 計				83
(6) 工学部・工学研究科				
留学(工学)	—	ベトナム	3ヵ月弱	1
留学(工学)	—	フィジー	2ヵ月弱	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	Worcester Polytechnic Institute Massachusetts Institute of Technology	米国	2ヵ月半	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	パリ工芸大学	フランス	2ヵ月強	1
留学(工学)	—	ブルガリア	2ヵ月	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	バレンシア州立工芸大学	スペイン	2ヵ月強	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	東ワシントン大学	米国	52日	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	Cincinnati Childrens Hospital Medical	米国	38日	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	ミシガン大学ディアボーン校	米国	30日	2
国際インターンシップ・海外留学支援事業	北京理工大学	中国	33日	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	タチ大学	マレーシア	32日	6
国際インターンシップ・海外留学支援事業	国立放射光研究センター	台湾	32日	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	UNIVERSITI SULTAN ZAINAL ABIDIN	マレーシア	31日	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	パドヴァ大学	イタリア	31日	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	Universiti Malaysia Perlis	マレーシア	29日	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	Pathumwan Institute of Technology (パトムワン工科大学)	タイ	28日	1
国際インターンシップ・海外留学支援事業	DEG (DESIGN ENVIRONMENT GROUP ARCHITECTS)	シンガポール	26日	3
海外短期インターンシップ	三重金属工業・エバ工業	ベトナム	9日	6
海外短期インターンシップ	ヤマモリ・百五銀行・日本トランシー・安永	タイ	9日	5
工学部分 計				36
(7) 生物資源学部・生物資源学研究科				
フィールドサイエンス実習	ボゴール農科大学 他	インドネシア	8日	3
国際インターンシップ	南太平洋大学	フィジー	50日	1
ドイツ語文化研修	エアランゲン・ニュルンベルク大学	ドイツ	36日	1
生物資源学部分 計				5
3ヵ月未満 全学部・センター 計				278
(8) 国際学会出席				
国際学会出席(工学)	—	米国	26日	2
国際学会出席(工学)	—	米国	5日	2
国際学会出席(工学)	—	ハワイ	5日	3
国際学会出席(工学)	—	韓国	3日	4
国際学会出席(工学)	—	カンボジア	4日	1
国際学会出席(工学)	—	シンガポール	8日/5日	5
国際学会出席(工学)	—	中国	4日	6
国際学会出席(工学)	—	ドイツ	4日	1
国際学会出席(工学)	—	香港	4日	2
国際学会出席(工学)	—	マレーシア	5日	4
国際学会出席(生物)	—	フランス	7日	2
国際学会出席(生物)	—	米国	9日	3
国際学会出席(生物)	—	カナダ・米国	18日	1
国際学会出席(生物)	—	韓国	3日	1
国際学会出席(生物)	—	チェコ	12日	2
計				39
合計				353

3. 国際的な学術交流活動・教育活動に関する教職員の研究・教育業績

(2015年4月1日～2016年3月31日)

論文・研究ノート

<人文学部>

1. 久間泰賢, T. Preface. 東洋文化. 96:3-6, 2016

<教育学部>

1. Kunio Hidano, Chengbo Wang, and Kazuyoshi Yokoyama. Combined effects of two nonlinearities in lifespan of small solutions to semi-linear wave equations. Accepted for publication in Mathematische Annalen. Dec. 11, 2015
2. Kase T, Kurihara Y, Aguilar YM, Pandita H, Fernando AGS, Hayashi H. A new cerithioidean genus *Megistocerithium* (Gastropoda: Mollusca) from the Miocene of southwest Asia. a possible relict of Mesozoic “Eustomatidae”. *Paleontol. Res.* 19(4): 299-311, 2015.
3. Gill DP, Gregory MA, Zou G, Liu-Ambrose T, Shigematsu R, Hachinski V, Fitzgerald C, Petrella RJ. The Healthy Mind, Healthy Mobility Trial. A Novel Exercise Program for Older Adults. *Medicine & Science in Sports & Exercise.* 48(2): 297-306, 2016 (PMID: 26285025)
4. Gregory MA, Gill DP, Zou G, Liu-Ambrose T, Shigematsu R, Fitzgerald C, Hachinskik V, Shoemaker K, Petrella RJ. Group-based exercise combined with dual-task training improves gait but not vascular health in active older adults without dementia. *Archives of Gerontology and Geriatrics.* 63: 18-27, 2016.
5. Gill DP, Gregory MA, Shellington EM, Liu-Ambrose T, Shigematsu R, Zou G, Shoemaker K, Owen AM, Hachinski V, Stuckey M, Petrella RJ. Group-based exercise and cognitive-physical training in older adults with self-reported cognitive complaints. The Multiple-Modality, Mind-Motor (M4) study protocol. *BMC Geriatrics*: 16-17, 2016. (DOI: 10.1186/s12877-016-0190-9)
6. 後藤太郎, 國仲寛人. ベトナムの高校理科教員養成系学生のための理科教育研修プログラムの実践. 三重大学国際交流センター紀要. 第11号. 133-143. 2016年
7. 後藤太郎. 「さくらサイエンスプラン」友情と感激. 三重大学の活動報告. 文教ニュース 2368: 74-75. 2015年

<医学系研究科・医学部>

1. Kasai Y, Sakakibara T, Kyaw TA, Soe ZW, Han ZM, Htwe MM. : Psychological effects of meditation at a Buddhist monastery in Myanmar. *J Ment Health*: 1-4. Dec. 24, 2015
2. Teekhasaene C, Kita K, Takegami K, Kawakita E, Sakakibara T, Kasai Y. Intraosseous lipoma of the third lumbar spine. a case report. *J Med Case Rep*: 9-52, 2015
3. Validation of the reliability of the Thai version of the Japanese Orthopaedic Association Cervical Myelopathy Evaluation Questionnaire (JOACMEQ).
Witayakom W, Paholpak P, Jirarattanaphochai K, Kosuwon W, Sirichativapee W, Wisanuyotin T, Laupattarakasem P, Sukhonthamarn K, Jeeravipoolvarn P, Sakakibara T, Kasai Y. *J Orthop Sci*. Mar. 21, 2016. (2):124-7. doi: 10.1016/j.jos.2015.12.017. Epub. Jan. 21, 2016

<工学研究科・工学部>

1. Gou Nishida, Bernhard Maschke, Ryojun Ikeura. Boundary Integrability of Multiple Stokes-Dirac Structures. *SIAM Journal on Control and Optimization*. Vol.53. No.2: 800-815, 2015.
2. Akira Nishimura, Masashi Baba, Kotaro Osada, Takenori Fukuoka, Masafumi Hirota, Eric Hu. Temperature Distribution in Single Cell of Polymer Electrolyte Fuel Cell Simulated by an 1D Multi-Plate Heat-Transfer. *Journal of Energy and Power Engineering*. DOI: 10.17265/1934-8975/2015.08.002. Vol.9. No.8: 687-704, 2015.
3. Akira Nishimura, Masanobu Kakita, Junsuke Murata, Toshitake Ando, Yasunari Kamada, Masafumi Hirota, Mohan Lal Kolhe. Optimization of Building Layouts to Increase Wind Turbine Power Output in the Built Environment Assumed to be Installed at Fukushima City and Tsu City in Japan. *Smart Grid and Renewable Energy*. DOI: 10.4236/sgre.2015.69023. Vol.6. No.9: 521-529, 2014.
4. Akira Nishimura, Takenori Fukuoka, Masashi Baba, Masafumi Hirota, Eric Hu. Clarification on Temperature Distribution in Single Cell of Polymer Electrolyte Fuel Cell under Different Operation Conditions by Means of 1D Multi-Plate Heat-Transfer Model. *Journal of Chemical Engineering of Japan*. Vol.48. No.10: 862-871, 2015.
5. Akira Nishimura, Mohan Kolhe. Global Warming-Causes, Impacts and Remedies, Chapter 7. A Study on Assessment of Power Output by Integrating Wind Turbine and Photovoltaic Energy Source with Futuristic Smart Buildings: 139-167. Apr.

- 2015.
6. Daichi Sugita, Satoshi Komada, Daisuke Yashiro, Junji Hirai, Sebastien Laporte. Estimated Muscular Strength of Limbs by Using Bone-on-Bone Stress, Proceedings of 2nd IEEEJ international workshop on Sensing, Actuation, Motion Control and Optimization: 1-2. Mar. 7-8, 2016.
 7. Tatsunosuke Matsui, Yuto Inose, David A. Powell, Ilya V. Shadrivov. Electroactive Tuning of Double-Layered Metamaterials Based on π -Conjugated Polymer Actuators. Adv. Opt. Mater. 4: 135-140, 2016.
 8. D. Mtsuko, A. Koshio, M. Yudasaka, S. Iijima, M. Ahlskog. Measurements of the transport gap in semiconducting multiwalled carbon nanotubes with varying diameter and length. Phys. Rev. B. 91: 195426, 2015
 9. M. Murugananthan, M. Kumaravel, H. Katsumata, T. Suzuki, S. Kaneco. Electrochemical Reduction of CO₂ using Cu electrode in Methanol/LiClO₄ Electrolyte. Int. J. Hydrogen Energy. 40: 6740-6744, 2015.
 10. A. H. A Dabwan, Y. Nakane, N. A. M. Asri, H. Katsumata, T. Suzuki, S. Kaneco. Removal of Methylene Blue, Rhodamine B and Ammonium Ion from Aqueous Solution by Adsorption onto Sintering Porous Materials Prepared from Coconut Husk Waste. Open J. Inorg. Non-metal. Mater. 5: 21-30, 2015.
 11. P. Gomathisankar, T. Kawamura, H. Katsumata, T. Suzuki, S. Kaneco. Photocatalytic Hydrogen Production from Aqueous Methanol Solution Using Titanium Dioxide with the Aid of Simultaneous Metal Deposition. Energy Sources. Part A. 38: 110-116, 2016.
 12. A. Samad, H. Katsumata, T. Suzuki and S. Kaneco. Highly Efficient Oxidation and Simultaneous Removal of Arsenite with CuO/ZnO Photocatalyst. Sci. Eng. & Environ. 1: 635-639, 2015.
 13. Md. A. I. Molla, H. Katsumata, T. Suzuki and S. Kaneco. Visible Weak Fluorescent Light Photocatalytic Degradation of Orange II and Methyl Orange with Dye-sensitized TiO₂. Sci. Eng. & Environ. 1: 640-643, 2015.
 14. S. Abe, D. A. Tayurskii. Clifford numbers from Bohr-Sommerfeld quantization of Grassmann-variant systems. JETP Letters. Vol. 102: 387-390, 2015.

<生物資源学研究科・生物資源学部>

1. Ayaka Uke, Naswiru Tibanyendela, Keiko T Natsuaki, NOBUHITO SEKIYA, Nobuaki Oizumi. Characterization of Rice yellow mottle virus in north-eastern Tanzania. Journal of Agricultural Science. Tokyo University of Agriculture 60 (3): 116-125, 2015

＜国際交流センター＞

1. 福岡昌子. ブラジル人学校の保護者への意識調査とその子弟への日本語指導について. 三重大学国際交流センター紀要. 第 18 (11) 号: 1-17. 2016 年
2. 福岡昌子. 日本語を学習する中国大学生に対する日本留学への意識調査－南京工業大学を対象に－. 三重大学国際交流センター紀要. 第 18 (11) 号: 89-104. 2016 年
3. 藤田昌志. 日本の中国観 (10) (2013.9-2014.8). 日本比較文化学会. 比較文化研究 116: 69-78. 2015 年 4 月
4. 藤田昌志. 受身表現について－日本語との対照から見た考察－. 三重大学国際交流センター紀要. 第 11 号: 19-32. 2016 年 3 月
5. 藤田昌志. 日本語表現と中国語表現の相違－誤用例分析・日中対照表現との関連で－. 三重大学国際交流センター紀要. 第 11 号: 33-44. 2016 年 3 月
6. 藤田昌志. 『日本文化論』の研究－明治以前・明治・大正－. 三重大学国際交流センター紀要. 第 11 号: 45-61. 2016 年 3 月
7. 藤田昌志. 明治・大正の日本論・中国論－総論－. 三重大学国際交流センター紀要. 第 11 号: 63-78. 2016 年 3 月
8. 藤田昌志. 大正時代について－比較文化学的考察－. 三重大学国際交流センター紀要. 第 11 号: 105-120. 2016 年 3 月
9. 藤田昌志. 昭和・平成時代について－国際関係を視野に入れて－. 三重大学国際交流センター紀要. 第 11 号: 121-133. 2016 年 3 月
10. 松岡知津子, 小竹直子. 中国人学習者による日中同形語の述語化－韓国人日本語学習者との比較を通して－. 愛産大経営論叢 18 号: 52-65. 2015 年 3 月
11. 松岡知津子. 日本語を学習する中国大学生に対する日本留学への意識調査－南京工業大学を対象に－. 三重大学国際交流センター紀要. 第 18 (11) 号: 89-104. 2016 年
12. 栗田聡子, 福島宏器, ラング・アニー. 情動的反応における接近システム特性と刺激希求性の効果－事象関連電位による検討－. 日本心理学会第 80 回大会論文集: 71. 2015 年.
13. 栗田聡子. 「メディアと日本文化」の授業実践による利点と課題. 三重大学国際交流センター紀要第 11 号 (通巻第 18 号): 145-166. 2016 年
14. 栗田聡子, 福島宏器, 室橋春光 (印刷中). 暴力ゲームにおける生理心理学的影響. 室橋春光, 芋阪満里子 (編). 改訂 生理心理学 第三巻. 北大路書房

著書

＜国際交流センター＞

1. 藤田昌志. 『日本の中国観Ⅱ－比較文化学的考察－』単著. 晃洋書房. 200 頁. 2015 年 10 月

V. 資料

2. 藤田昌志. 『日本文化概論Ⅲ－歴史編 3: 近現代 2 (昭和・平成～)－』単著. 51 頁. 2016 年 1 月
3. 藤田昌志. 『日本語と中国語のモダリティ』共著. 白帝社. (本人担当部分「とりたて詞と中国語表現」): 69-78. 2015 年 10 月

発表・講演

<教養教育機構>

1. 言語学国際学会 Formal Approaches to Japanese Linguistics 8 (FAJL 8). 三重大学. 2016 年 2 月.

<教育学部>

1. 森脇健夫. 日本語教師のライフヒストリー研究. 天津外国語大学. 2016 年 3 月 14 日
2. 宮岡邦任, 吉田圭一郎, 山下亜紀郎, 羽田 司, Marcelo Eduardo Alves, Olinda, Armando, Hideki Shinohara, Frederico Dias Nunes, 大野文子. ブラジル・セルトンの水文環境と人間活動 (3) -貯水池 (アスーデ)・河川水の水質分布-. 2016 年日本地理学会春季学術大会. 2016 年 3 月 21, 22 日.

<医学系研究科・医学部>

1. 堀 和一郎, 堀 浩樹, 内田 淳正. Zambia における Equality 評価の検討. 第 74 回日本公衆衛生学会総会. 長崎市. 2015 年 11 月 4-6 日.
2. 堀 和一郎, 堀 浩樹, Leaning Jennifer, Reich Michael. 米国の災害シミュレーション教育に学ぶ. 第 47 会日本医学教育学会大会. 新潟市. 2015 年 7 月 24-25 日.
3. Hiroki Hori. Globalization of Higher Education - Development and Achievements in Mie University -. the 22nd Tri-University International Joint Seminar and Symposium 2015. Jiangsu University, China. Oct 18-23, 2015.
4. 笠井裕一. 日整会と新興国との関わり方 ミャンマーにおける脊椎外科教育支援の現状と課題. 日本整形外科学会 2015. 神戸. 2015 年 5 月 21 日.
5. Yuichi Kasai. My Myanmar medical supports. Viet Nam Spine meeting 2015. Ho Chi Minh, Viet Nam. Sep. 18, 2015.
6. Yuichi Kasai. Be a spinal surgeon!. Myanmar Orthopaedic congress 2015. Yangon, Myanmar. Oct. 5, 2015.
7. Yuichi Kasai. Tadpole system and UPSS. Jiangsu Orthopaedic conference. Jiangsu, China. Oct. 19, 2015.
8. Yuichi Kasai. How to write international medical paper. Mandalay Orthopaedic conference 2016. Mandalay, Myanmar. Jan. 7, 2016.

9. Yuichi Kasai. UPSS for lumbar degenerative diseases. KiSCO Cadaveric workshop 2016. Khon Kaen, Thailand. Feb. 11, 2016.
10. Yuichi Kasai. How to insert pedicle screws. Kisco Cadaveric workshop. Feb. 11, 2016.
11. Yuichi Kasai. My supports for Myanmar spinal surgeries. 9th MISS congress. Inuyama, Japan. Mar. 12, 2016.

<工学研究科・工学部>

1. Akira Nishimura, Masanobu Kakita, Satoshi Kitagawa, Junsuke Murata, Toshitake Ando, Yasunari Kamada, Masafumi Hirota, Mohan Lal Kolhe. Optimization of Building Layout to Increase Wind Turbine Power Output in the Built Environment. The 4th Joint Conference on Renewable Energy and Nanotechnology. 4p. Matsuyama, Japan. Dec., 2015.
2. T. Matsui, Y. Inose, D. A. Powell, I. V. Shadrivov. Tunable terahertz and microwave metamaterials based on π -conjugated polymer actuators(oral). META'15. the 6th International Conference on Metamaterials. Photonic Crystals and Plasmonics. City College of New York, USA. Aug. 4-7, 2015.
3. Tatsunosuke Matsui, Yuto Inose, David A. Powell, Ilya V. Shadrivov. Tunable terahertz and microwave metamaterials based on π -conjugated polymer actuators. [Invited]. 5th Korea-Japan Metamaterials Forum. Seoul National University. Seoul, KOREA. Jun. 29-Jul. 1, 2015.
4. Q. A. Wang, S. Abe, W. Li. Journal of Physics. Conference Series. Vol. 604 (2015). The proceedings of The 4th International Workshop on Statistical. Physics and Mathematics for Complex Systems (SPMCS2014). Yichang, China. Oct. 12-16, 2014.

<生物資源学研究科・生物資源学部>

1. 宮本加奈, Joeli Veitayaki, 浜野五十二, 吉松隆夫. フィジー共和国ガウ島におけるナマコ蓄養の取り組み. 平成 28 年度日本水産学会春季大会. 125. 2016 年
2. 関谷信人, 富高元徳, 大泉暢章, Anne Assenga, Mathew Jacob. 農業研修所が推進する農家間技術普及. タンザニアにおけるネリカ普及の事例. 日本作物学会第 241 回講演会. 78. 2016 年
3. 関谷信人, 富高元徳, 大泉暢章, Adam Pyuza, Richard Shayo, Anne Assenga, 家元隆佳, 石堂憲二, 佐伯保則. 基本技術導入によるタンザニア灌漑稲作の生産性向上. 日本作物学会第 241 回講演会. 77. 2016 年

V. 資料

4. 吉松隆夫. 三重大学とJICAの連携による自然環境保全と生物資源の持続的利用の取り組み. 「日本の国際協力と三重県のつながり」特別講演会. 三重県総合文化センター. 2016年2月20日

<国際交流センター>

1. 福岡昌子. 発話意図と高さ・長さ・速さに関するパラ言語習得: Recognition of Paralinguistic Speech Acts Involved in the Emphasis of the Mental Attitude. 第四回中日韓朝言語文化比較研究シンポジウム 2015. 延辺大学. 2015年8月
2. 福岡昌子. 心的態度の強調に関わるパラ言語音声の知覚. 第29回日本音声学会全国大会. 神戸大学. 2015年10月
3. 福岡昌子. 高さ(Fo)・長さ・速さと発話意図に関するパラ言語習得. 第260回名古屋音声研究会. 名古屋大学. 2015年5月
4. 藤田昌志. 漢語独白文について—日本語教育の援用. 中国語教育学会 第13回全国大会. 予稿集: 76-79. 龍谷大学. 2015年6月7日
5. 藤田昌志. 加訳(日→中)再論—接続詞(中)・副詞(中)の加訳(日→中)について—, 日中対照言語学会第34回大会(2015年度冬季大会). 発表レジュメ 10. 大阪産業大学梅田サテライト. 2015年12月20日
6. 松岡知津子, Andre Podziński. Japanologentag. Eine Untersuchung der japanischen Rollensprache in Hinblick auf die eigene Sprachproduktion. Ein Vergleich zwischen Erwachsenen und Kindern sowie den verschiedenen Rollensprachtypen. ドイツ・ミュンヘン. 2015年8月
7. 松岡知津子, 鄭鎮玄, 文大榮, 朴基文, 松岡 守, 魚住明生, 世良 清, 村松浩幸, 片桐昌直, 白濱弘幸. 韓国と日本の小中学校の教科書の記述でみた地財教育の比較. 日本産業技術教育学会東海支部大会. 2015年12月

その他・書評等

<国際交流センター>

1. 藤田昌志, 森田康夫著(2015年9月). 『評伝 三宅雪嶺の思想像』和泉書院について. 図書新聞. 400字詰め原稿用紙5枚弱. 2016年1月1日(金)に掲載

4. 名簿

(1) 国際交流センター教員名簿

職名等		2015年度(2016年3月31日現在)
センター長(併) 副学長		堀 浩 樹
副センター長(併) 学長補佐		吉 松 隆 夫
専任教員	教授	福 岡 昌 子
	准教授	藤 田 昌 志
	准教授	松 岡 知津子
	准教授	栗 田 聡 子
非常勤講師		太 田 慶 子
		大 野 陽 子
		岸 晴 苗
		仲 渡 理恵子
		花 見 楨 子
		フロイド・マクダニエル
		ブライアン・ジェームズ・マホニー

(2) 職員名簿

① 学術情報部国際交流チーム

職名等	2015年度(2016年3月31日現在)
部長	上 川 正 石
課長	秋 保 聡
係長	井 澤 貴代美
国際交流コーディネーター	黒 田 恵
非常勤職員	高 橋 ゆ り
	出 口 美 香
	元 田 佳 江
	田 中 雅 美
	中 原 美 保

② 学務部学生サービスチーム留学生支援室

職名等	2015年度(2016年3月31日現在)
部長	葛 西 勇
課長	清 水 久 己
室長	奥 山 真由里
チーム員	郡 一 樹
	早 川 佳 那
非常勤職員	小 川 佳 子
	水 谷 弥 生
	大 西 沙 苗
	井 村 加奈子

V. 資料

(3) 国際関連委員会名簿

① 国際戦略本部会議

職名等	2015年度(2016年3月31日現在)
本部長	鶴岡 信治
副本部長	堀 浩樹
学生総合支援センター長	後藤 太一郎
人文学部・教授	大河内 朋子
教育学部・教授	宮岡 邦任
医学系研究科・教授	ガバザ・サブリア・エスパン
工学研究科・教授	金子 聡
生物資源学研究科・教授	吉松 隆夫
国際交流センター・教授	福岡 昌子
国際医療支援センター・教授	笠井 裕一
社会連携研究センター・助教	加藤 貴也
教養教育機構・教授	綾野 誠紀
学術情報部長	上川 正石
監事	橋本 洋一

② 国際交流センター運営会議

職名等	2015年度(2016年3月31日現在)
国際交流センター長	堀 浩樹
国際交流副センター長	吉松 隆夫
学生総合支援センター長	後藤 太一郎
国際交流センター専任教員	福岡 昌子
	松岡 知津子
	栗田 聡子
国際交流センター兼務教員	井上 稔浩(人文)
	宮地 信弘(教育)
	佐久間 肇(医学)
	阿部 純義(工学)
	王 秀嵩(生物)
学術情報部長	上川 正石
留学生支援室長	奥山 真由里

③ 留学生委員会

学部等	2015年度委員(2016年3月31日現在)	専門委員会
学生総合支援担当副学長	後藤 太一郎	
国際交流センター副センター長	吉松 隆夫	
国際交流会館主事	新田 貴士	
人文学部	福田 和展	第1専門委員会
	相澤 康隆	第2専門委員会
教育学部	玉城 政和	第1専門委員会
	服部 明子	第2専門委員会
医学部	成田 有吾	第1専門委員会
	戸田 雅昭	第2専門委員会
工学部	富田 昌弘	第1専門委員会
	加藤 彰一	第2専門委員会
生物資源学部	柴田 敏行	第1専門委員会
	塚田 森生	第2専門委員会
国際交流センター	松岡 知津子	第1.2専門委員会
学務部学生サービス課長	清水 久己	
学術情報部国際交流課長	秋保 聡	

注：第1専門委員会は、留学生の受入れに関する事項、学生の海外派遣に関する事項、留学生制度に関する事項を審議する。

第2専門委員会は、国際交流会館及び国際女子学生寄宿舎に関する事項や、留学生の修学・生活援助に関する事項を審議する。

5. 歴代国際交流担当理事 国際交流センター長 一覧

	国際交流担当理事	国際交流センター長
2005年度	亀岡孝治	亀岡孝治
2006年度	亀岡孝治	亀岡孝治
2007年度	小林英雄	小林英雄
2008年度	小林英雄	小林英雄
2009年度	松岡守	松岡守
2010年度	松岡守	松岡守
2011年度	朴恵淑	朴恵淑
2012年度	朴恵淑	朴恵淑
2013年度	堀浩樹	堀浩樹
2014年度	堀浩樹	堀浩樹
2015年度	鶴岡信治	堀浩樹

6. 三重大大学の国際化に関する目標および達成のための措置

(第二期中期目標・中期計画 (2010年～2015年))

(1) 学内国際化

(目標)

国際交流イベントなどによって、国際感覚が自然に身につけやすい学内の国際化を進める。

(措置)

- ① インターネットを活用した遠隔授業等により海外大学等との国際交流活動を充実させる。
- ② 国際交流週間、外国人研究者による講演、多文化社会関係のシンポジウムなど三重大大学の学生、教職員の国際感覚の涵養につながるイベントを推進する。

(2) 外国人受入れと学生、教職員の派遣

(目標)

留学生、外国人研究者の受入れ体制及び学生、教職員の海外派遣制度を整備し、充実を図る。

(措置)

- ① 文書、ウェブの英語併記化や共用情報端末の多言語化など外国人留学生・研究者受入れの環境・支援体制の整備を進め、受入れ数を増大させる。
- ② 学生の国際性の涵養を図るため、ダブルディグリープログラム、Tri-U国際ジョイントセミナー&シンポジウム、海外インターンシッププログラムなどの学生の派遣・受入れプログラムを充実させる。また、名古屋大学と愛知教育大学等と連携してグローバル人材の育成に取り組む。
- ③ 三重大大学独自の教職員の海外派遣制度を整備し、教職員全体の国際性の涵養を図る。

(3) 地域国際化支援

(目標)

地域の国際化・国際交流の発展を支援する。

(措置)

- ① それぞれの文化の特性を尊重しつつも全体として融合した優れた多文化社会の共創に向けて、多文化に関わる学内の研究成果を活用したシンポジウムや公開講座の開催を推進する。
- ② 地域の国際化・国際交流に資する留学生等による多文化交流プログラムを推進する。



●三重大学国際交流ホームページ
(<http://www.mie-u.ac.jp/international/>)

発行／平成 28(2016)年 9 月
国立大学法人 三重大学
問合わせ先／国際交流チーム
〒514-8507 津市栗真町屋町 1577
TEL 059-231-9721
FAX 059-231-5692
E-mail koryu@ab.mie-u.ac.jp
ホームページ <http://www.mie-u.ac.jp/international/>
印刷／伊藤印刷株式会社

